OITA UNIVERSITY

Oita University Campus Master Plan 2016

大分大学キャンパスマスタープラン 2016

表紙デザインコンセプト

「未来へとつながる豊かな研究の場」

「創造的・多元的な思考力を育む場」

「多様な人々が交流する場」

これらのキーワードから、大分大学学章（シンボルマーク）に用いられている「青色」と「黄色」を基調とした線を使い交差させることにより、　大分大学３キャンパスを表現しました。

OITA UNIVERSITY

キャンパスマスタープランの実現に向けて

国立大学法人 大分大学長
北野　正剛

大分大学は、大学憲章において「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。」を基本理念と定め、その達成のため、これまで様々な取組を行ってきました。そして昨年、平成２８年度から始まる第３期中期目標期間を見据えた「大分大学ビジョン２０１５」を策定し、地域における地（知）の拠点としての大学、魅力あふれる大学として歩んでいこうとしております。また、各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割（ミッション）を整理した「ミッションの再定義」を示しました。これを踏まえ、大学の機能の再構築・強化に向けた改革を一層推進し、地域活性化の中核的拠点としての大分大学を目指しております。

大分大学が進めている改革にとって、キャンパスが果たす役割は非常に大きく、更なる改革のためには、これまで以上にキャンパスの質的向上が重要となってきます。キャンパスは、学生にとって専門的な知識やその知識を活用できる柔軟な思考力を修得する場であるとともに、さまざまな経験を通じて社会人として生き抜く能力「人間力」を育む場です。また、教職員や地域の人にとっては、地域における教育・研究の拠点、国際的連携の実践的な場、産業創出の実験の場となります。今回策定した「大分大学キャンパスマスタープラン２０１６」は、「中期目標・中期計画」、「大分大学ビジョン２０１５」及び「ミッションの再定義」を施設面・環境面から支えることを目的とし、平成２８年度から１２年間（中期計画２期分）のキャンパス整備計画を示しています。

今後は、この「大分大学キャンパスマスタープラン２０１６」をもとに魅力あふれるキャンパス形成の実現に向けて努めてまいります。

皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

INDEX

chapter-1　第１章　キャンパスマスタープランの前提条件

・・・キャンパスマスタープラン作成の目的・位置づけ・構成　1
・・・大分大学憲章　3
・・・大分大学ビジョン2015　5
・・・国立大学法人大分大学の第3期中期目標・中期計画　7
・・・ミッションの再定義　9

chapter-2　第２章　キャンパスの現状と課題

・・・主要３キャンパスの施設の現状　11
・・・旦野原キャンパスの施設の現状と課題　15
・・・挾間キャンパスの施設の現状と課題　17
・・・王子キャンパスの施設の現状と課題　19
・・・旦野原キャンパスの屋外環境の現状と課題　21
・・・挾間キャンパスの屋外環境の現状と課題　23
・・・王子キャンパスの屋外環境の現状と課題　25

chapter-3　第３章　キャンパス整備の基本方針・整備方針・活用方針

・・・基本方針・整備方針・活用方針　27

chapter-4　第４章　キャンパス整備の部門別計画

・・・旦野原キャンパスのゾーニング計画　29
・・・挾間キャンパスのゾーニング計画　31
・・・王子キャンパスのゾーニング計画　33
・・・旦野原キャンパスのパブリックスペース計画　35
・・・挾間キャンパスのパブリックスペース計画　36
・・・旦野原キャンパスの動線計画　37
・・・挾間キャンパスの動線計画　39
・・・王子キャンパスの動線計画　41
・・・主要３キャンパスのサスティナブルキャンパス計画　43
・・・主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画　45
・・・旦野原キャンパスのインフラストラクチャー計画　47
・・・挾間キャンパスのインフラストラクチャー計画　49
・・・王子キャンパスのインフラストラクチャー計画　51
・・・旦野原キャンパスのインフラストラクチャー計画　53
・・・挾間キャンパスのインフラストラクチャー計画　55
・・・王子キャンパスのインフラストラクチャー計画　57
・・・主要３キャンパスの施設維持管理計画　59
・・・主要３キャンパスの施設有効利用計画　60
・・・主要３キャンパスのサイン計画　61
・・・主要３キャンパスのユニバーサルデザイン計画　63
・・・主要３キャンパスの災害対策　64
・・・主要３キャンパスの緑地維持保全計画　65
・・・旦野原キャンパスの施設整備計画　67
・・・挾間キャンパスの施設整備計画　69
・・・王子キャンパスの施設整備計画　71

references

・・・参考資料

キャンパスマスタープランの前提条件

キャンパスマスタープランの目的・位置づけ・構成

キャンパスマスタープランの目的

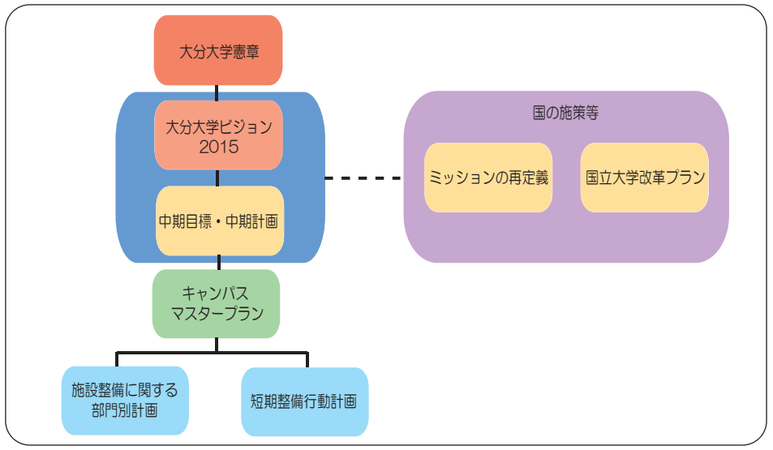
キャンパスマスタープランは、「大分大学憲章」に掲げられた基本理念のもとに策定された「大分大学ビジョン2015」とその実現を図るための具体的な取組となる「中期目標・中期計画」の達成を施設面及び環境面から支えるために策定するものである。

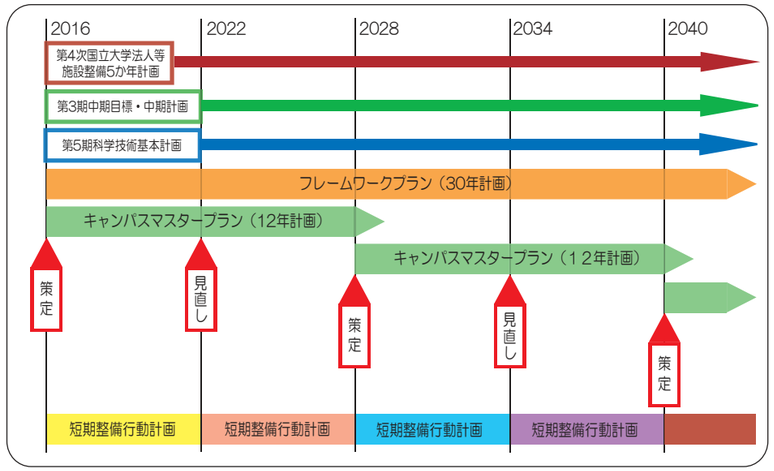
調和のとれた秩序あるキャンパスを全学の合意のもとに計画し、教育研究活動の基盤となり、学生にとっては学びの場、卒業生にとっては思い出の場、そして、これから学ぼうとする人たちにとっては魅力あふれる場を創っていく。

キャンパスマスタープランの位置づけ

キャンパスマスタープランは、「大分大学ビジョン2015」及び「中期目標・中期計画」において示された中長期的な指針・目標と「ミッションの再定義」で掲げた改革を達成するための施設・環境整備に係る計画と位置づけ、計画期間を12年を設定し、6年に1度見直しを行う。

細部に関する計画は、キャンパスマスタープランに則して、部門別計画及び短期整備行動計画にて行う。



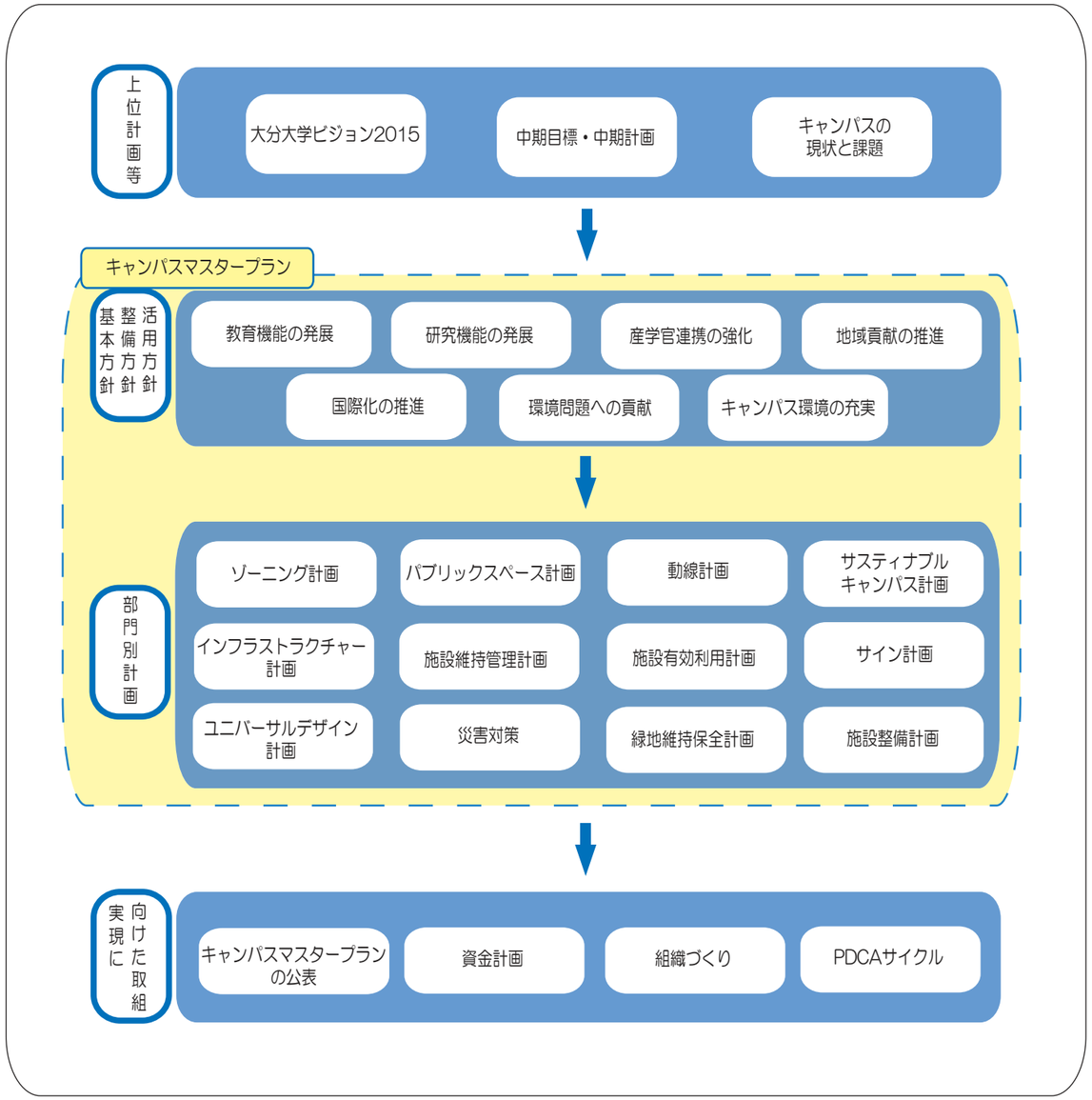


キャンパスマスタープランの構成

キャンパスマスタープランは、「基本方針・整備方針・活用方針」と「部門別計画」で構成されている。

「基本方針・整備方針・活用方針」は、「上位計画」を基に７つの視点から策定している。また「部門別計画」は「基本方針・整備方針・活用方針」を実現するため１２の分野の視点から策定している。

今後、キャンパスマスタープランの実現に向けた取組を行っていく。



キャンパスマスタープランの前提条件

大分大学憲章

前文

世界の情勢がめまぐるしく変化する現在、大学の在り方も大きな転換が求められている。

ここ大分の地は、かつて異文化交流の国際的な先進地であった。大分大学は、この進取の伝統を受け継ぎ更なる飛躍を期して、ここに基本理念と目標を定め、われらに期待されている社会的使命を果そうと決意した。

多様な経歴をもつ学生の教育においては、高い倫理観と豊かな創造力・実践力を育成するため、個々のニーズに対応して効果的に機能する体制の確立が緊要な課題となっている。一方、大学で行う先端的な研究には、学問研究の自由の保障のもとに、組織として基礎と応用の均衡を図りつつ、「知」の再構築に向けて、その成果を発信することが求められる。また、地域社会・国際社会との双方向的コミュニケーションに基づく貢献と交流の積極的な推進も重要な課題となっている。これら諸課題の解決のためには、大学の組織と運営について、主体的な点検・評価を踏まえながら不断の改革を実行することが不可欠である。

大分大学は、ここに新しい組織・体制のもとで新たな出発をする。われらは、大分大学の充実と発展のために邁進し、人間味あふれる大学づくりに努めることが責務であると信ずる。

大分大学の基本理念

大分大学は、人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。

教育の目標

1．大分大学は、学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成する。

2．大分大学は、ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成する。

3．大分大学は、高い学習意欲を持ち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成する。

研究の目標

1．大分大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、知的成果を大分の地から世界へ発信する。

2．大分大学は、広い分野の学際的な研究課題に対して、総合大学の特性を活かし、学の融合による新たな学問分野の創造を目指す。

社会貢献の目標

1．大分大学は、地域拠点大学として、教育・研究・医療の成果を地域社会に還元することにより、地域社会との連携と共存を図り、その発展に貢献する。

2．大分大学は、国際的な拠点大学として、広く世界に目を向けて交流を進める。特に、アジア諸国との特徴ある国際交流を推進する。

運営の目標

1．大分大学は、自主的・自律的な教育研究と管理運営のもと、活動内容の継続的な質的向上を図るとともに、情報を積極的に公開し、社会への説明責任を果すよう努める。

2．大分大学は、社会と時代の変化に対応し得る、機能性に優れた柔軟な運営体制の構築を目指す。

平成16年4月1日
国立大学法人 大分大学

キャンパスマスタープランの前提条件

大分大学ビジョン2015

大分大学は、その使命を、大学憲章（基本理念）において「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する。」と位置付けています。その使命達成のため、今後６年間（第３期中期目標期間）を見据えたビジョンを策定します。

地方の時代、地方の創生が我が国の最も重要な課題とされる中、大分県とそれを取り巻く地域が抱える課題に向けた取組に対して、中核的拠点である本学が最大限のコミットメントを行います。これを達成するため、

vision-1 「社会が求める高い付加価値を持った人材の養成」

vision-2 「地（知）の拠点としての機能の高度化」

vision-3 「新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学経営の実現」

という３つのビジョンを掲げ、以下の観点からその推進を図っていきます。

◆自立的・創造的に社会に貢献し、次世代を生き抜く力を持った人材の育成を行う。
◆時代や社会のニーズ等を踏まえた不断の大学改革・教育研究組織の見直しを行う。
◆人口減少・超高齢社会を見据え、中核的拠点として、地域の教育・福祉・医療・産業などの各分野における課題解決に貢献する。
◆これまでの産学官連携等の地域との連携を深化させ、本学がもつ教育•研究成果や様々な資源を活用し、社会にイノベーションをもたらすような「地域における知の創造」の実現を図る。
◆大学としての社会的責務を果たすための戦略と組織を構築し、高度な経営を進めていく。学長のリーダーシップの下、迅速かつ的確な組織としての意思決定を実現するため、新たなシェアードガバナンスを構築する。
◆ダイバーシティ社会を実現する大学運営を目指し、女性教職員の活躍推進を図る。

具体的な取組は、このビジョンに則して、第３期中期目標・中期計画を策定し、その実現を図ります。本学は、このビジョンを社会に提示し、その役割を果たしていきたいと考えます。

vision-1 社会が求める高い付加価値を持った人材の養成

- 学生がグローバル社会で大きく羽ばたき、社会を創生する力強い人材へと成長するための学びの場を提供します。
- 高度な専門性と幅広い視野・科学的想像力を有し、高い創造性を発揮できる人材を育成するため、専門教育と教養教育との有機的な連携を展開します。
- グローバルかつインクルーシブな視野を持ち、多様な価値観と創造的・多元的な思考力を持つ人材を育む教養教育を推進します。
- 国際性豊かな教育・キャンパス環境を整備します。
- 学習意欲が高く優秀な学生の確保に努めます。
- 学生のキャリアパスを見据えたキャリア支援体制を強化します。
- 学生の学びを支えるための支援体制を強化します。

vision-2 地（知）の拠点としての機能の高度化

- 大分の地にあって、世界へ通じる研究拠点を形成し、重層的で豊かな研究を実施します。
- 有意な研究成果を創出するため、分野の連携・融合や組織的な研究を弾力的に支援する体制を構築します。
- 研究成果を社会へ還元し、地域社会・国際社会が抱える課題の克服に寄与します。
- 地域の拠点として高度先進医療を展開します。
- 多様なパートナーとの連携を推進します。

vision-3 新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学経営の実現

- コンプライアンスを推進し、本学の使命及びミッションを達成するためのガバナンス体制を再構築します。
- シェアードガバナンスを達成する大学運営を行います。
- ダイバーシティ社会を実現するための大学運営を行います。
- 財務基盤の強化を図ります。
- 大学経営を支える高度な人材の養成を進めます。

※「大分大学ビジョン２０１５」より抜粋

キャンパスマスタープランの前提条件

国立大学法人大分大学の第3期中期目標・中期計画

（前文）大学の基本的な目標

本学は大分大学憲章に則り、国際化が進む社会及び地域のニーズに的確に対応できる豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、大分県唯一の国立大学として「大分創生」を目指し、これまでに蓄積してきた知的資源を最大限に活用した教育・研究・医療・社会貢献活動を積極的に展開し、もって地域活性化のための「知」の拠点としての機能の高度化を推進する。

１）社会が求める高い付加価値をもった人材の養成

能動的な学修を通して高い専門的知識を修得するとともに、グローバルかつインクルーシブな視野をもって自立的・創造的に社会に貢献し、次世代を生き抜く力を持った人材育成を行う。同時に今後の１８歳人口の推移等に留意しつつ、時代や社会のニーズ等を踏まえた不断の大学改革と教育研究組織の見直しを行う。

２）「知」の拠点としての機能の高度化

大分県を中心とした地域との産学官連携等を深化させ、本学が持つ教育の研究成果や様々な資源を活用し、社会にイノベーションをもたらすような「地域における知の創造」の実現を図る。独創的・先進的な研究分野においては世界に通じる研究拠点を形成するとともに、研究成果を社会に還元する。医療分野においては、幅広い専門知識を有した医療人、医学研究者を育成するとともに、高度先進医療を展開することを通じて、地域における拠点としての役割を果たす。

３）新時代のガバナンス体制の構築による戦略的大学経営の実現

社会情勢に的確かつ迅速に対応することにより、大学としての社会的責務を果たすとともに、戦略的な経営を進めていくために、学長のリーダーシップが発揮できる運営体制の確立とそれを支える人材の育成、並びに安定した財政基盤の構築を目指す。また、女性教職員の活躍推進を図るなど、ダイバーシティ社会を実現する大学経営を目指す。

国立大学法人大分大学の第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標	Ⅴ　その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置
１．施設整備の整備・活用等に関する目標	１．施設整備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置
〈29〉　施設の整備・活用にあたり、大学の機能強化を推進する施設整備を行う。	【72】　キャンパスの整備と活用に係る基本的な計画であるキャンパスマスタープランに基づき、国の財政措置の状況を踏まえ、本学の機能強化を推進する施設整備や、施設・設備の老朽化対策並びにユニバーサルデザインに配慮した安全・安心な教育研究環境の整備、及び省エネや維持管理コスト削減等に資する環境負荷の低減対策を行う。また、既存施設の有効活用の観点から、新学部設置や学部改組については、基本的に既存施設で対応する。

※「国立大学法人大分大学の第3期中期目標・中期計画」より抜粋

キャンパスマスタープランの前提条件

ミッションの再定義

ミッションの再定義とは

各国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割（ミッション）を整理し、確定するものです。大分大学では、各分野の強みや特色を生かし、社会的な役割の観点から大学の機能の再構築・強化に向けた改革を一層推進し、地域活性化の中核的拠点としての大分大学の実現に向けて邁進していきます。

医学分野

○大分大学医学部の基本理念に基づき、患者の立場を理解した全人的医療ができる医師の養成、高度先進医療の開発提供の担い手となる医師・研究者の養成を積極的に推進する。

○低侵襲医療技術（がんの内視鏡外科手術の技術開発等）の開発を始めとする研究の実績や、治験中核病院としての取組実績、医療機器生産・開発拠点である東九州の産官学のネットワーク等を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上、国際貢献等を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。

他　２項目

工学分野

大分大学においては、質の高い特色ある教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材の育成、世界に通用する科学技術の創造並びに地域への貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

○自らの課題を探求するための高い学修意欲と国際性及び柔軟な思考力を有する人材を育成するという教育理念のもと、ゆるぎない基礎学力と専門知識を備えるとともに高い倫理観を有する高度な技術者等の育成の役割を充実するとともに、技術改革や新たな考え方、社会での新たな価値の創出につながる新規分野の開拓や理論の構築を先導し、実社会で活躍することができるイノベーション博士人材を育成する役割を果たす。

他　４項目

教員養成分野

○大分大学の教員養成分野は、大分県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、大分県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図るものとする。このため、学部運営においては特に以下の二点について取り組む。

ⅰ　実践的指導力の育成・強化を図るため、現在約 10% の学校現場で指導経験のある大学教員を、第２期中期目標期間における改革を行いつつ、第３期中期目標期間末には 20% を確保する。また、指導経験のない教員に対しては、内地留学としての初等中等学校への派遣、公立学校や附属学校等における授業の実施、学校の教科書を用いた模擬授業を行うＦＤなどの研修を実施する。

ⅱ　学部に教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置し、学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に実質的な意見交換を行い、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。

他　３項目

社会科学分野

【総論】

大分大学における社会科学分野においては、真理の探究を図るとともに、大分県を中心とした九州地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

○経済学等の学問分野の教育研究を通じて、経済学・経営学の基礎知識や方法論を身に付け、修得した知識・能力を活用し、経済社会における諸課題を的確に把握・分析し、解決策を提示することができる能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。

他　６項目

【研究】

○経済学・経営学分野における研究実績をいかし、地域づくりや地域企業の経営に関する実践的な研究に取り組んでいる。

他　２項目

【その他】

○高校生と大学生が共に学ぶ「学問探検ゼミ」を中心に高大接続教育体制を構築するとともに、大分県教育委員会及び大分県立大分商業高等学校との３者協議会を設置し、高大７年間を通じた地域人材の養成に寄与している。

他　１項目

学際分野

【総論】

大分大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、大分県や九州をはじめとした地域の福祉課題の解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。

【教育】

○社会福祉学を中心に、法学、経済学、経営学、社会学、教育学等の幅広い社会科学分野を取り入れた教育研究を通じて、福祉を総合的・多面的に捉え、専門職業人として必要な専門知識の修得、福祉ニーズ及び課題を分析できる能力、総合的な判断力と問題解決能力を有する人材を養成する。

他　３項目

【研究】

○地域の福祉課題に関する研究実績をいかし、自治体、福祉関係団体等と連携した福祉ニーズの把握と、生活課題実態調査や福祉サービスの変容分析などに取り組んでいる。

他　２項目

【その他】

○全学的な機能強化を図る観点から、福祉分野を中心とした社会ニーズを踏まえつつ、大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。

保健系分野

○大分大学の理念等に基づき、看護師教育と保健師教育の共通基盤を統合し、（臨地実習を重視した教育により、）大分県のあらゆる人々の健康生活を支援する専門職を養成する。

他　２項目

※「ミッションの再定義」より抜粋

キャンパスの現状と課題

主要３キャンパスの施設の現状

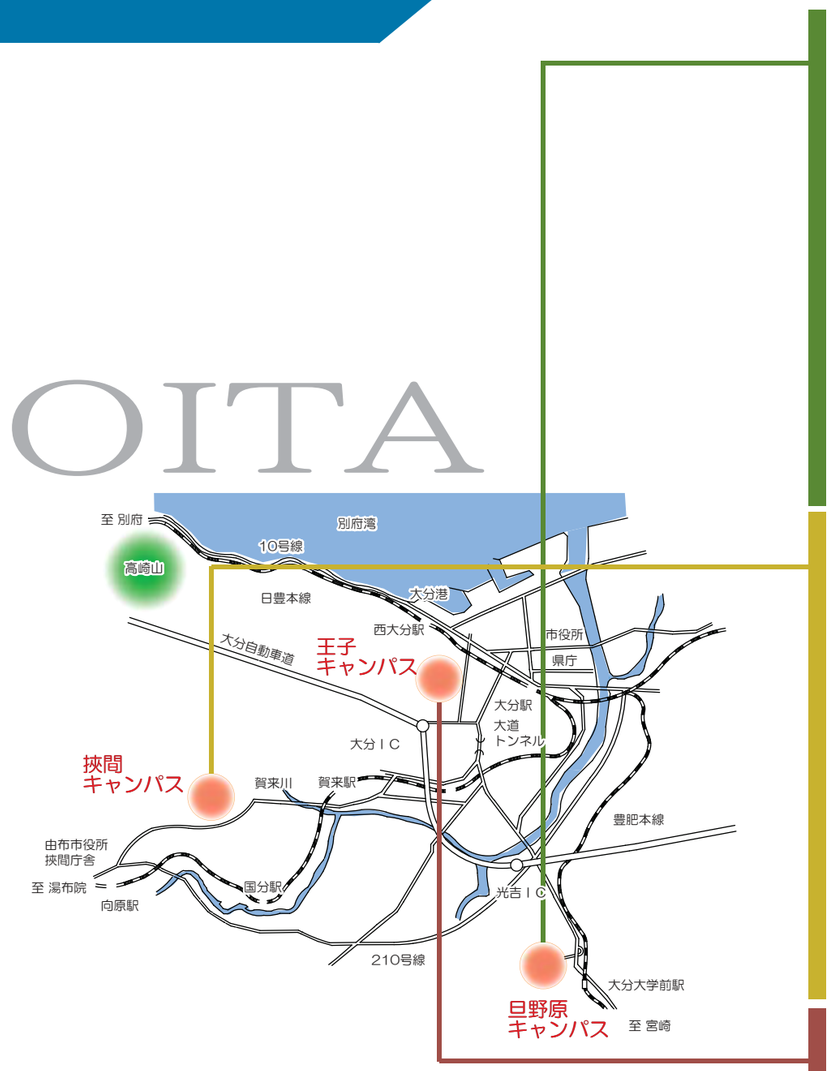
現在の大分大学は、平成１５年１０月に旧大分大学と旧大分医科大学が統合され、平成１６年４月に国立大学法人大分大学として新しく誕生した。なお、主要キャンパスは、大分市内に２キャンパスと由布市内に１キャンパスの計３キャンパスからなる。

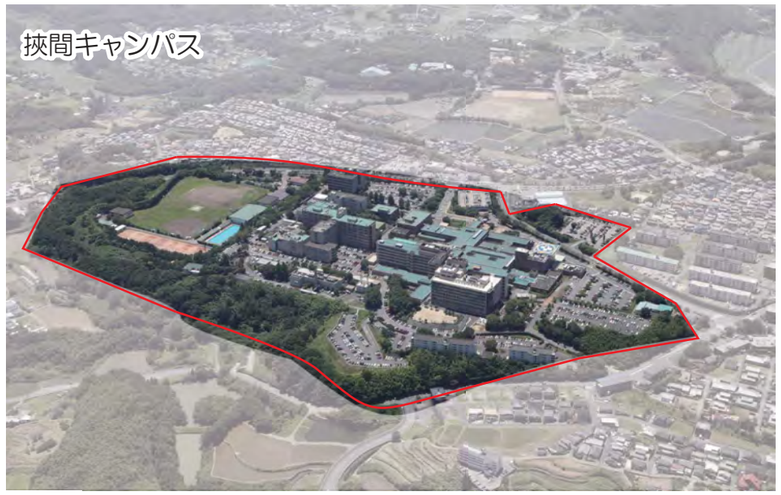
旦野原キャンパスは大分市の郊外に位置し、本学の本部があり『教育・研究・社会連携の拠点』として、教育学部、経済学部、工学部、福祉健康科学部を配置している。敷地の６５％を緑地が占め、野生動物も多く生息する自然豊かな環境で市民にも開放されたキャンパスである。

挾間キャンパスは、『医療・生命科学の拠点』としてキャンパスの東側に医学部、西側に附属病院を配置している。附属病院では、特定機能病院として求められる機能、多様化する患者・社会ニーズに対応するべく拠点病院としての再整備を行っている。

王子キャンパスは、教育学部附属学校園のキャンパスであり、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校を配置している。１つのキャンパスに４校園が配置されており、子どもたちの教育環境に恵まれている。設立は昭和２４年と本学で最も歴史のあるキャンパスである。

本学で学んでいる学部生・大学院生は5,６８２名、生徒・児童・園児は1,３３９名であり、勤務する教職員は1,８７３名である。





主要３キャンパスの立地環境について、旦野原キャンパスは大分市南部、国道１０号線沿いの高台に位置する。挾間キャンパスは由布市東部、大分市との境、県道２０７号線沿いの高台に位置する。王子キャンパスは大分市中心部（市役所から2km圏内）に位置する。

３キャンパスの敷地面積の合計は約９６万㎡、建築面積の合計は約９万㎡、延べ床面積の合計は約２３万㎡である。

キャンパスの現状と課題

主要３キャンパスの施設の現状

学生・職員数

■学生・生徒・児童及び園児数 ※平成27年5月1日現在　※人数は現員数とする

■学部

教育福祉科学部	1,048人
経済学部	1,353人
医学部	915人
工学部	1,697人
合計	5,013人

■大学院

教育学研究科	75人
経済学研究科	54人
医学系研究科	155人
工学研究科	353人
福祉社会科学研究科	32人
合計	669人

■教育福祉科学部附属学校園

附属中学校	478人
附属小学校	649人
附属幼稚園	156人
附属特別支援学校	56人
合計	1,339人

学生・生徒・児童及び園児合計　7,021人

■教職員数 ※平成27年5月1日現在　※人数は現員数とする

■教職員

事務局	364人
教員	516人
学術情報拠点	5人
学内共同教育研究施設等	30人
男女共同参画推進室	1人
医学部附属病院	957人
教職員合計	1,873人

※非常勤職員を除く

総数　8,894人

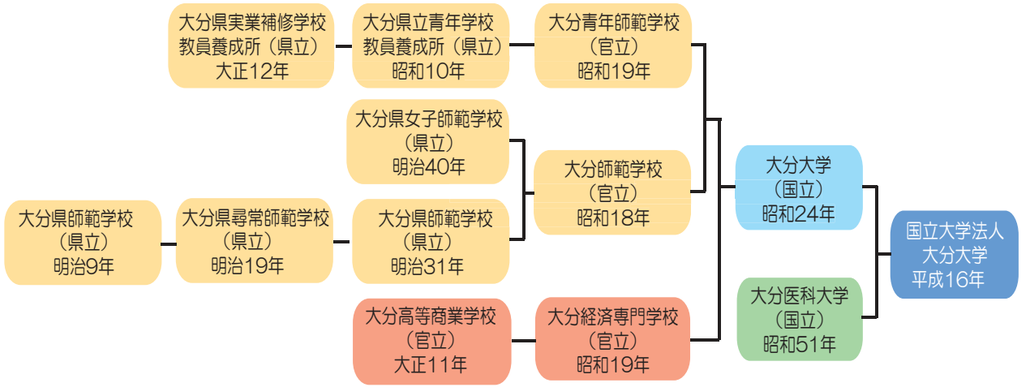
主要３キャンパスの施設概要

※平成27年5月1日現在
※旦野原キャンパスは、構内宿舎及び藤蔭保管庫の建築面積及び延べ床面積を除く
※挾間キャンパスは、看護師宿舎の敷地面積、建築面積及び延べ床面積を除く

キャンパス名	学部等	敷地面積	建築面積	延べ床面積	建ぺい率	容積率
旦野原	教育福祉科学部 経済学部 工学部 教育学研究科 経済学研究科 工学研究科 福祉社会科学研究科	646,253 ㎡	39,058 ㎡	90,735 ㎡	6 %	15 %
挾間	医学部 医学系研究科 附属病院	238,165 ㎡	40,272 ㎡	117,142 ㎡	16 %	48 %
王子	附属中学校 附属小学校 附属幼稚園 附属特別支援学校	74,009 ㎡	12,109 ㎡	19,476 ㎡	16 %	26 %

本学の歴史

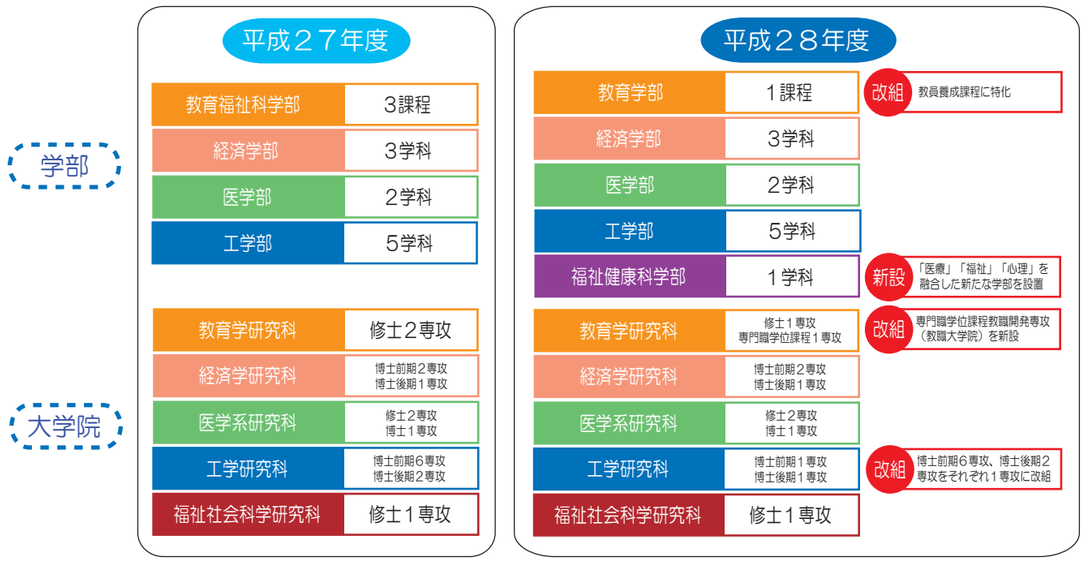
大分大学は大分県師範学校、大分県実業補修学校教員養成所及び大分県女子師範学校を源流とする学芸学部（現：教育学部）、大分高等商業学校を源流とする経済学部により昭和２４年開学し、昭和４７年には工学部が設置された。また、現在の医学部の前身である大分医科大学は昭和５１年に開学した。国立大学法人化に伴い大分大学と大分医科大学は統合し、平成１６年に国立大学法人大分大学が設置された。



教育研究組織の改組について

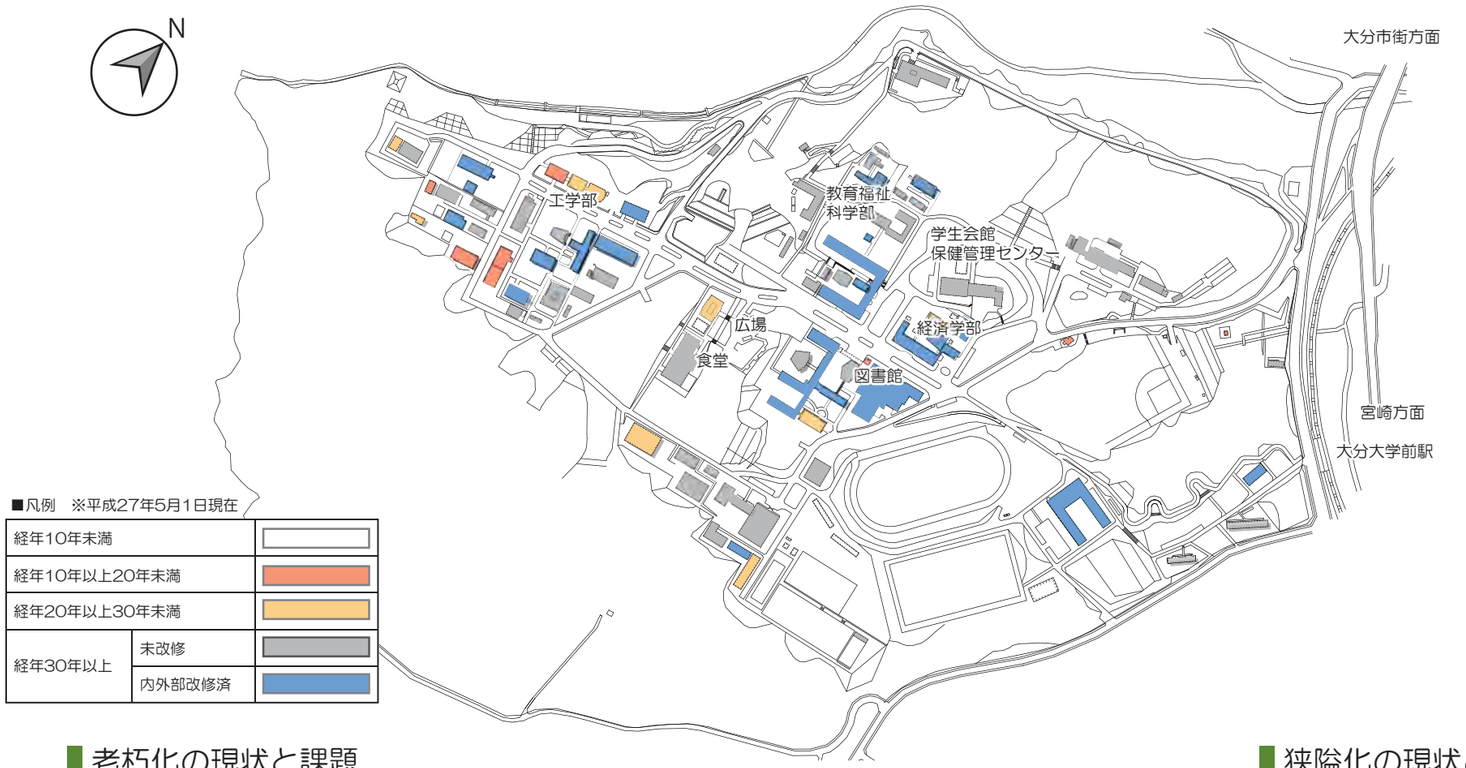
大分大学では、「国立大学改革プラン」や「ミッションの再定義」等を踏まえ、また、今後、少子高齢化が急激に進んでいく大分県における唯一の国立大学の役割を果たすべく、大分大学が持つ特色や強みを活かしながら、「地域活性化の中核的拠点」として、どのように機能を再構築し、強化を図るかという観点で検討を行っている。

なお、平成２８年度には以下のとおり教育研究組織を改組することとしている。また、経済学部や工学部の改組についても検討中である。



キャンパスの現状と課題

旦野原キャンパスの施設の現状と課題



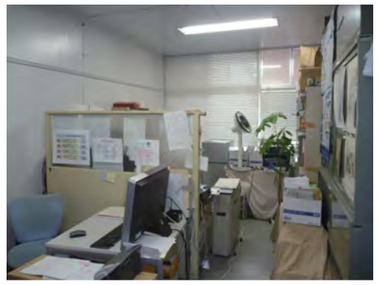
■凡例　※平成27年5月1日現在

経年10年未満		
経年10年以上20年未満		
経年20年以上30年未満		
経年30年以上	未改修	
	内外部改修済	

旦野原キャンパスの老朽化1

旦野原キャンパスの老朽化2

旦野原キャンパスの老朽化3


旦野原キャンパスの狭隘化

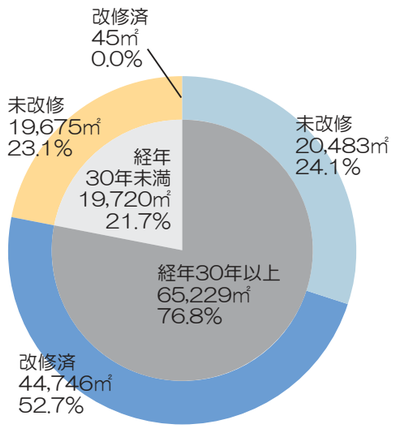
老朽化の現状と課題

旦野原キャンパスの建物面積は84,949㎡である。経年30年以上の建物が65,229㎡で76.8%を占めており、そのうち未改修の建物は20,483㎡で24.1%を占めている。構造部分に影響を来しているもの、仕上げ材の劣化により危険な状態にあるもの、設備が耐用年数を過ぎているものがあり、早急な対応が必要である。また、屋上防水層の劣化は経過年数に関係なく深刻な問題である。

■建物の老朽化現状

旦野原キャンパス
建物面積
84,949㎡

※平成27年5月1日現在
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く

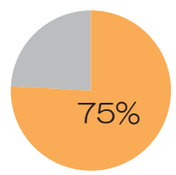
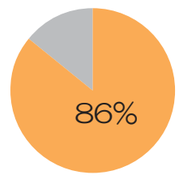
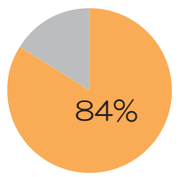


狭隘化の現状と課題

旦野原キャンパスでは、整備率が経済学部で75%、工学部で86%、教育福祉科学部で84%となっている。今後、保有面積の最適化を図る必要があり、財源の確保が課題である。

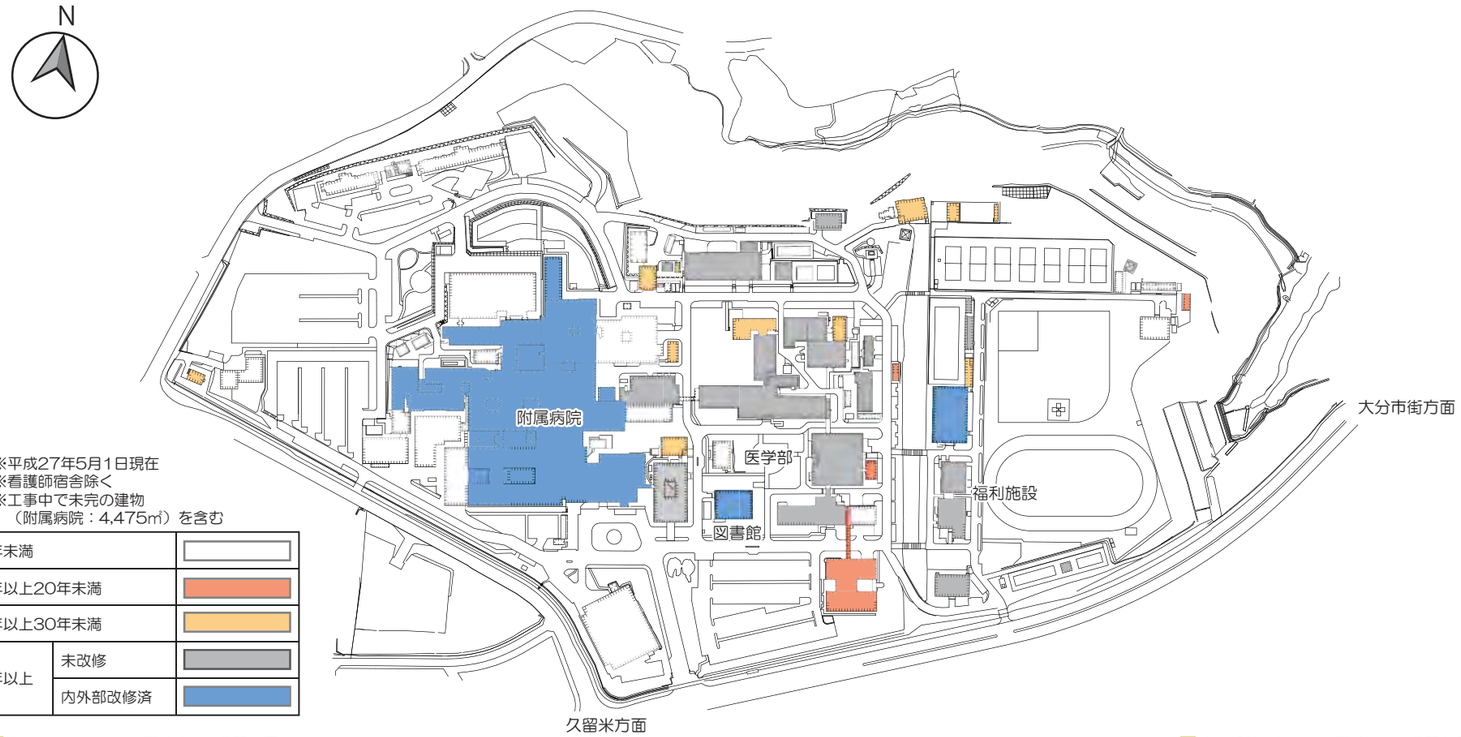
■面積区分毎の整備率　※平成27年5月1日現在

※整備率：保有面積／必要面積で表され、整備率が低いほど狭隘度が高いことを示す。

面積区分	経済学部	工学部	教育福祉科学部
保有面積（㎡）	6,367㎡	28,597㎡	14,604㎡
必要面積（㎡）	8,494㎡	33,087㎡	17,315㎡
整備率（%）			

キャンパスの現状と課題

挾間キャンパスの施設の現状と課題



■凡例　※平成27年5月1日現在
※看護師宿舎除く
※工事中で未完の建物
（附属病院：4,475㎡）を含む

経年10年未満		
経年10年以上20年未満		
経年20年以上30年未満		
経年30年以上	未改修	
	内外部改修済	

挾間キャンパスの老朽化1

挾間キャンパスの老朽化2

挾間キャンパスの老朽化3

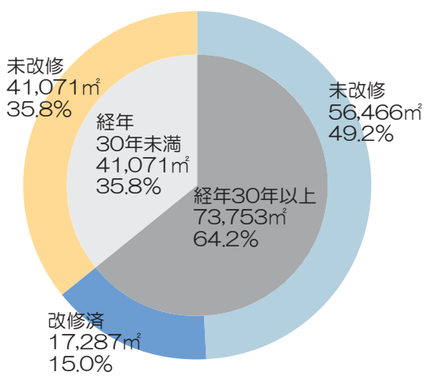
挾間キャンパスの老朽化4

老朽化の現状と課題

挾間キャンパスの建物面積は114,824㎡である。経年30年以上の建物が73,753㎡で64.2%を占めており、そのうち未改修の建物は56,466㎡で49.2%を占めている。仕上げ材の劣化により危険な状態にあるもの、設備が耐用年数を過ぎているもの、研究に対して建物設備が不足しているものがあり、早急な対応が必要である。また、屋上防水層の劣化は経過年数に関係なく深刻な問題である。附属病院の再整備が平成３０年３月に完了予定であるが、学部の再整備を早急に実施する必要がある。

■建物の老朽化現状

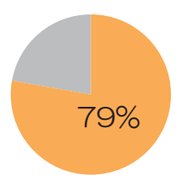
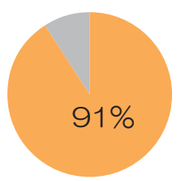
挾間キャンパス
建物面積
114,824㎡
※平成27年5月1日現在
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く
※看護師宿舎除く
※工事中で未完の建物を含む
（附属病院：4,475㎡）



狭隘化の現状と課題

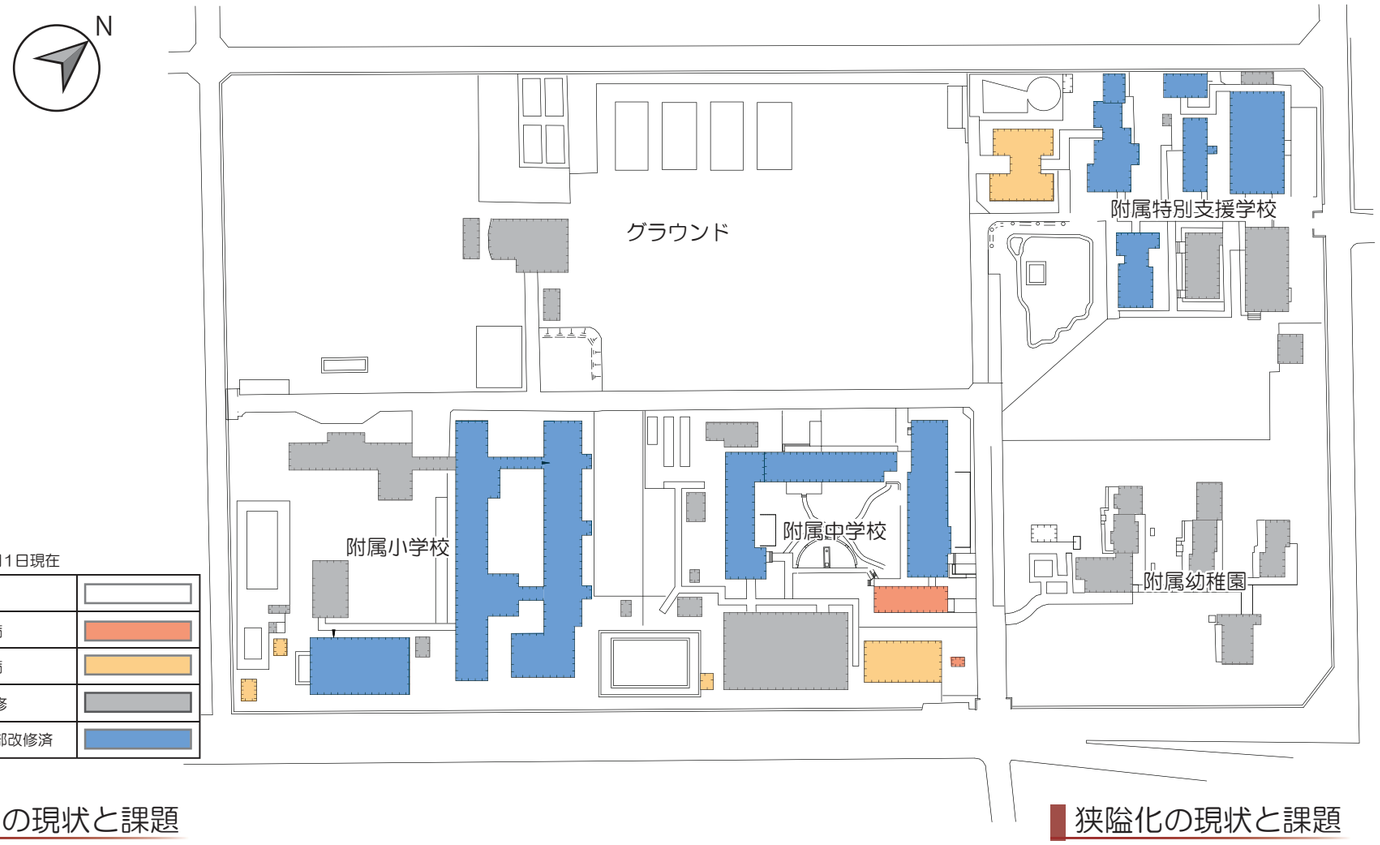
挾間キャンパスでは、整備率が医学部（医学科）で79%、医学部（看護学科）で91%となっている。今後、保有面積の最適化を図る必要があり、財源の確保が課題である。

■面積区分毎の整備率　※平成27年5月1日現在
※整備率：保有面積／必要面積で表され、整備率が低いほど狭隘度が高いことを示す。

面積区分	医学部（医学科）	医学部（看護学科）
保有面積（㎡）	21,888㎡	4,750㎡
必要面積（㎡）	27,826㎡	5,195㎡
整備率（%）		

キャンパスの現状と課題

王子キャンパスの施設の現状と課題



■凡例　※平成27年5月1日現在

経年10年未満		
経年10年以上20年未満		
経年20年以上30年未満		
経年30年以上	未改修	
	内外部改修済	

王子キャンパスの老朽化1

王子キャンパスの老朽化2

王子キャンパスの老朽化3

王子キャンパスの老朽化4

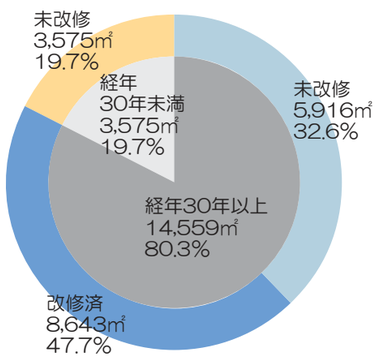
老朽化の現状と課題

王子キャンパスの建物面積は18,134㎡である。経年30年以上の建物が14,559㎡で80.3%を占めている。そのうち未改修の建物は5,916㎡で32.6%である。内外仕上げ部分が劣化により非常に危険な状態にあり、早急な対応が必要である。また、屋上防水層の劣化は経過年数に関係なく深刻な問題である。

■建物の老朽化現状

王子キャンパス
建物面積
18,134㎡

※平成27年5月1日現在
※昭和56年以前の建物のうち、今後耐震改修を予定しないものを除く

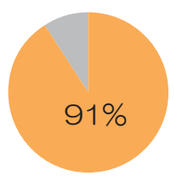
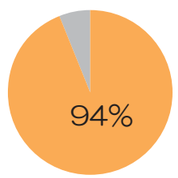
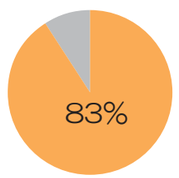
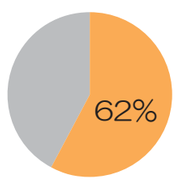


狭隘化の現状と課題

王子キャンパスでは、整備率が附属中学校で91%、附属小学校で94%、附属幼稚園で83%、附属特別支援学校で62%となっている。今後、保有面積の最適化を図る必要があり、財源の確保が課題である。

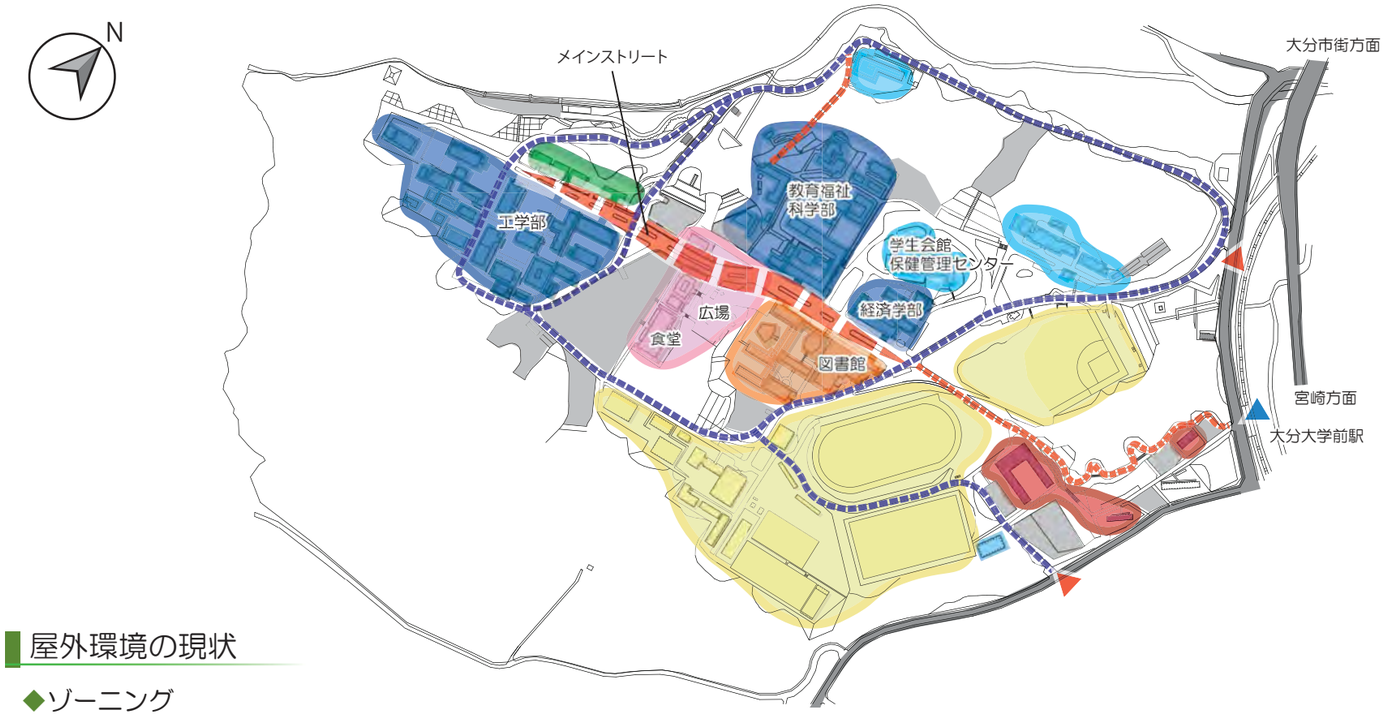
■面積区分毎の整備率　※平成27年5月1日現在

※整備率：保有面積／必要面積で表され、整備率が低いほど狭隘度が高いことを示す。

面積区分	附属中学校	附属小学校	附属幼稚園	附属特別支援学校
保有面積（㎡）	5,426㎡	5,864㎡	959㎡	3,236㎡
必要面積（㎡）	5,940㎡	6,210㎡	1,158㎡	5,200㎡
整備率（%）				

キャンパスの現状と課題

旦野原キャンパスの屋外環境の現状と課題



■凡例　※平成27年5月1日現在

管理施設ゾーン		幹線道路	
教育研究施設ゾーン		メインストリート	
運動施設ゾーン		歩行者専用道路	
共学ゾーン		主要な出入口	▲
共用ゾーン		上記以外の出入口	▲
産学官研究連携ゾーン			
駐車場ゾーン			
住居ゾーン			

屋外で劣化した配管

幅員の取れていない車道

統一感のある外観

樹木が建物に影響を与えている

屋外環境の現状

◆ゾーニング

・敷地の中心部に図書館や食堂、広場を配置し、学生が集うゾーンを形成している。学生のキャンパスライフを支える管理施設である学生会館や保健管理センターが、共用ゾーンから離れており、利便性が悪い。

◆インフラストラクチャー

・共同溝の老朽化が著しく、スペースも狭いため配管配線類の更新作業が困難な状況である。

・汚水配管の一部が露出しているため、露出部分の配管が劣化してきている。
（工学部の設置時に、配管経路の変更を行い、配管が一部露出している。）

・屋外照明が水銀灯のために、消費電力が上がり運用負担が大きい。

◆交通バリアフリー

・幹線道路に歩道が整備されていない部分が多い。また車道の幅員が取れていない部分がある。

◆ランドスケープ

・1965年に移転統合により設置されたキャンパスであるため、シンボルとなる歴史的建築物は存在しない。しかし、キャンパスのメインストリートに沿った建物は、耐震改修に伴い外観の統一化が図られている。

・緑地率の高いキャンパスであるが、移転統合時の造成以降、適切な樹木管理が行われていないため、樹木が建物及びインフラストラクチャーに影響を与えている。

屋外環境の課題

◆ゾーニング

・共用ゾーンの包括的・計画的な整備によるキャンパスアメニティの向上

◆インフラストラクチャー

・配管配線類の更新、屋外照明のLED化

◆交通バリアフリー

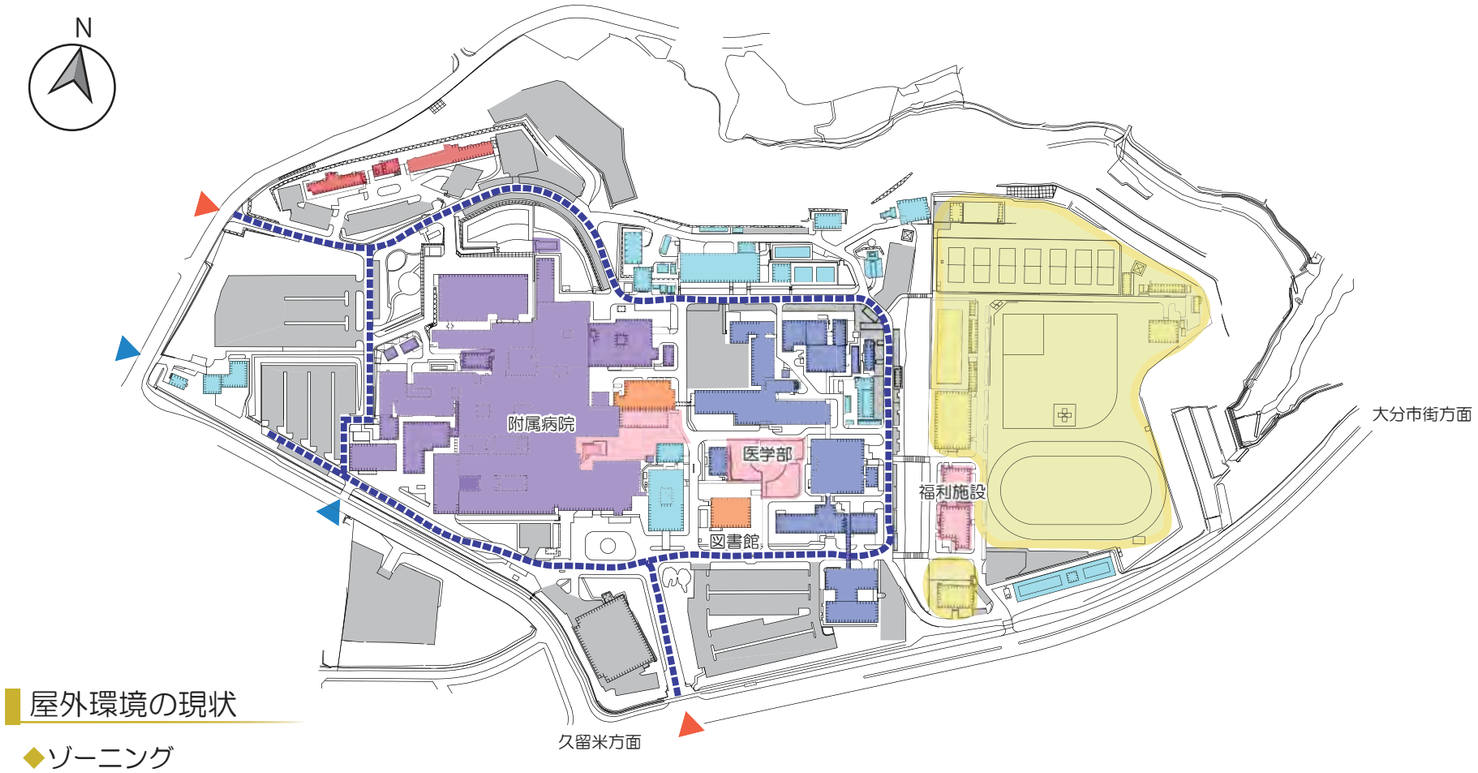
・幹線道路の歩車共存化

◆ランドスケープ

・シンボルとなる環境の整備、改修予定建物の継続的な外観統一、緑地の維持保全計画

キャンパスの現状と課題

挾間キャンパスの屋外環境の現状と課題



■凡例　※平成27年5月1日現在

管理施設ゾーン		幹線道路	
教育研究施設ゾーン		主要な出入口	
運動施設ゾーン		上記以外の出入口	
共学ゾーン			
共用ゾーン			
病院ゾーン			
駐車場ゾーン			
住居ゾーン			

医学部と離れている福利施設

老朽化した外灯

優先路がわかりづらい交差点

統一性のない医学部の外観

屋外環境の現状

◆ゾーニング

- 敷地の西側に附属病院があり、東側に医学部関係施設が配置されている。北側に管理施設となるインフラストラクチャーが整備されている。医学部の学生が利用する福利厚生施設が教育研究施設と離れており利便性が悪い。

◆インフラストラクチャー

- キャンパス内の配管配線類が30年以上未更新なため老朽化している。なお、附属病院の配管配線類は更新作業が進められている。
- 屋外照明が水銀灯のために、消費電力が上がり運用負担が大きい。

◆交通バリアフリー

- キャンパス正門は、キャンパスを利用する全ての車両が出入りしている。附属病院と医学部を分ける交差点は、優先路が不明瞭である。
- 医学部北側の幹線道路において、歩道が整備されていない。また駐車場も不足している。

◆ランドスケープ

- 1976年に設置されたキャンパスであるため、シンボルとなる歴史的建築物は存在しない。キャンパス内の外観の統一性がない。
- 緑地率の高いキャンパスであるが、適切な樹木管理が行われていないため、樹木が建物及びインフラストラクチャーに影響を与えている。

屋外環境の課題

◆ゾーニング

- 医学部福利施設の集約及び歩行者専用道路整備によるキャンパスアメニティの向上

◆インフラストラクチャー

- 配管配線類の更新、屋外照明のLED化

◆交通バリアフリー

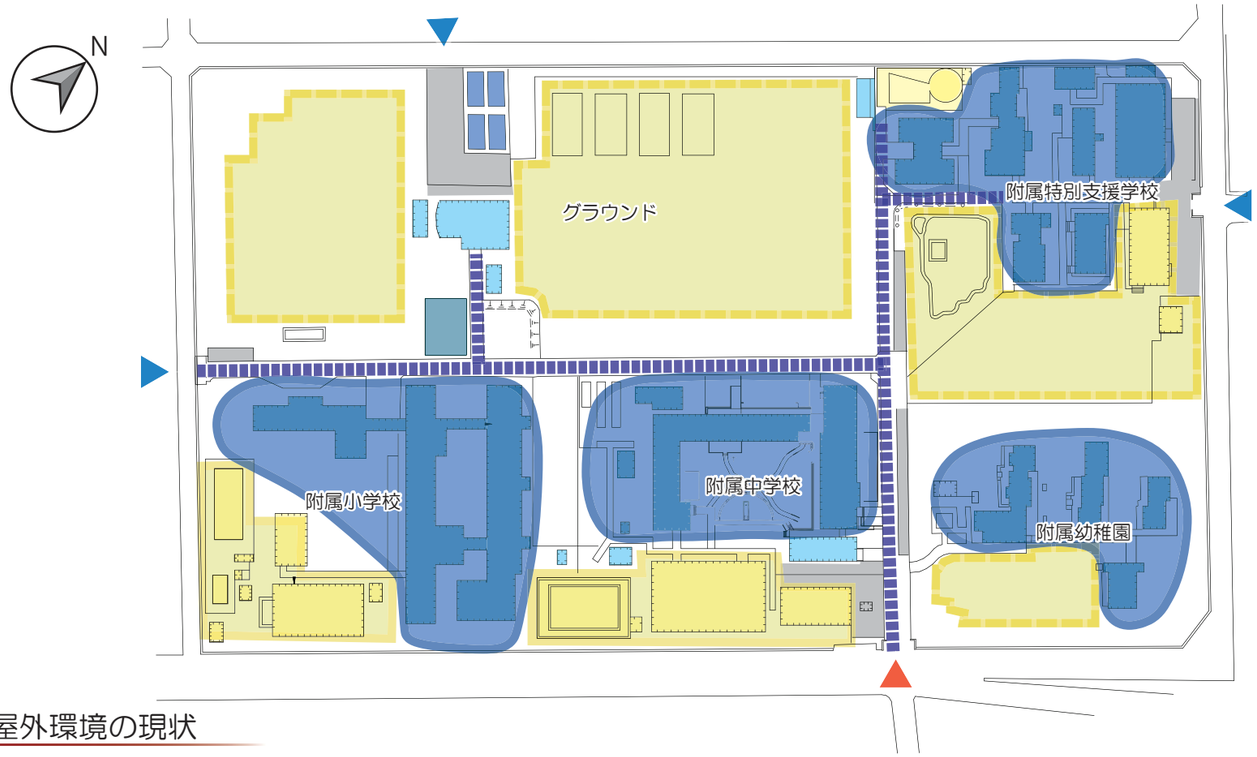
- 駐車場の整備、幹線道路の歩車共存化

◆ランドスケープ

- シンボルとなる環境の整備、キャンパス内建物の外観統一、緑地の維持保全計画

キャンパスの現状と課題

王子キャンパスの屋外環境の現状と課題



■凡例　※平成27年5月1日現在

管理施設ゾーン		幹線道路	
教育研究施設ゾーン		主要な出入口	▲
運動施設ゾーン		上記以外の出入口	▲
駐車場ゾーン			

幹線道路の状況

歩道が整備されていない幹線道路

敷地内の排水が悪い状況

樹木に影響を受けている外灯

屋外環境の現状

◆ゾーニング

・敷地内を縦と横に延びる幹線道路を基軸とし、その道路に沿って附属小学校、附属中学校、附属幼稚園、附属特別支援学校が配置されている。

◆インフラストラクチャー

・平成6年にインフラストラクチャーの改修を行っているが、地下水位が高く、大雨の際に共同溝内が水没し、配管配線に影響を与えている。また、雨水の排水処理能力が低いため、降雨の際に水溜りができやすい。

・屋外照明が水銀灯のために、消費電力が上がり運用負担が大きい。

◆交通バリアフリー

・４箇所ある出入口の内、保護者などの一般車両が入場できる出入口が１箇所しかないため、混雑が激しい。

・駐車スペースと混在した幹線道路の幅が狭く、車両同士の離合が困難である。

・歩道が一部未整備である。

◆ランドスケープ

・歴史的建築物やシンボルとなる建築物が存在せず、キャンパス内の景観に統一性がない。

・適切な樹木管理が行われていないため、樹木が建物及びインフラストラクチャーに影響を与えている。

屋外環境の課題

◆ゾーニング

・キャンパス内の動線整備による、４校園ゾーンの機能活性化

◆インフラストラクチャー

・配管配線類の更新、屋外照明のLED化

◆交通バリアフリー

・幹線道路の歩車共存化

◆ランドスケープ

・シンボルとなる環境の整備、統一性のある建物外観の整備、緑地の維持保全計画

キャンパス整備の基本方針・整備方針・活用方針

基本方針・整備方針・活用方針

基本方針

- 社会のニーズに対応した人材の創造
- 世界へ通じる研究拠点
- 産学官連携を展開し、地域の新たな価値を創造
- 社会に貢献する地域の拠点
- 国際性豊かな教育を提供
- 持続的社会に対応
- 魅力的なキャンパス

整備方針

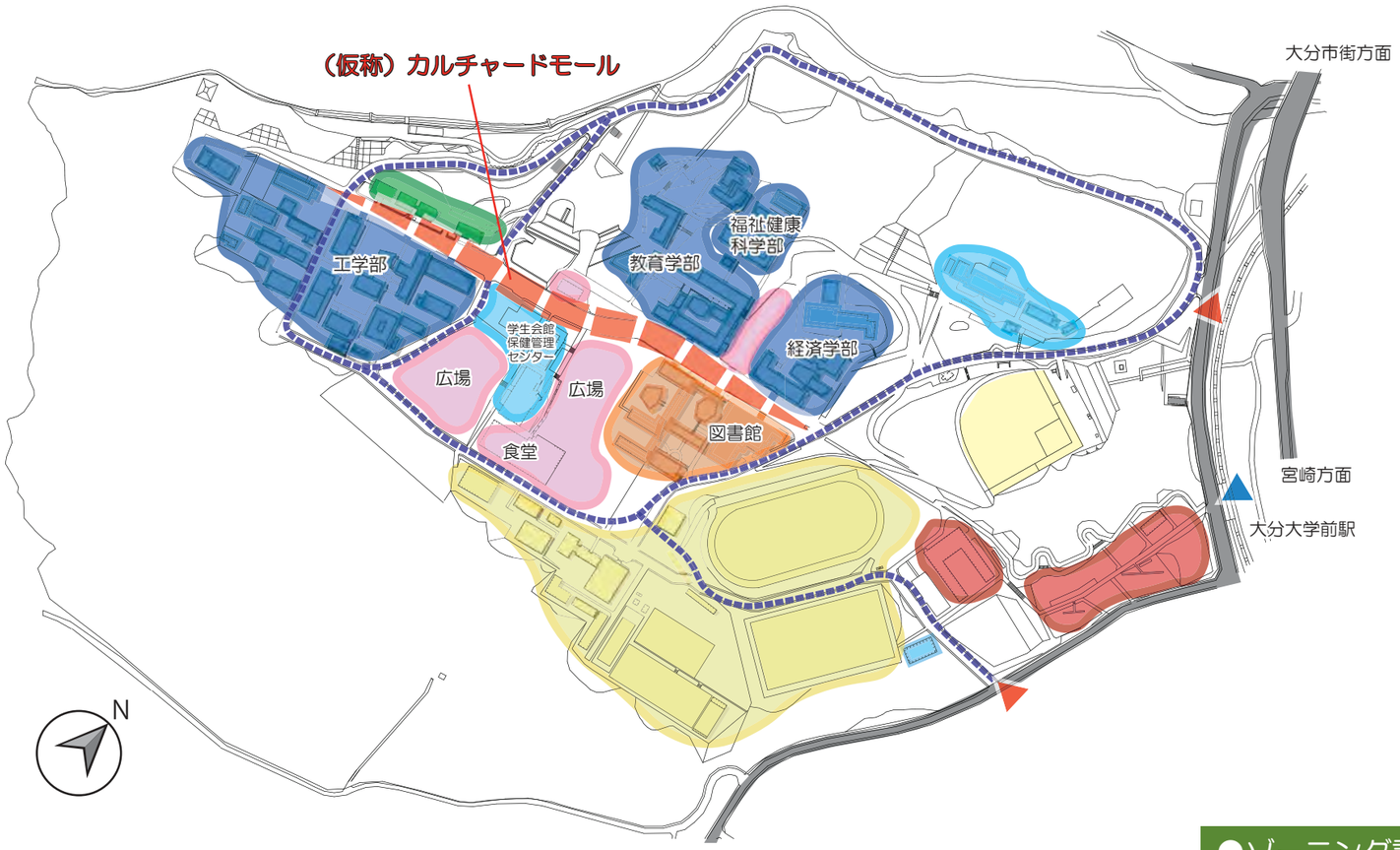
- 人材育成のための教育環境の整備
- 多様な機関との学びの場の創出
- 高度な研究を行うための研究環境の整備
- 附属病院を臨床の現場として教育・研究機能の充実
- 地域産業活性化のための環境の整備
- 共同研究や受託研究を行うための環境の整備
- 地域の中核病院としての環境の整備
- 国内外の大学・研究機関と連携して研究するための環境の整備
- 教育環境を活性化する国際交流の場の充実
- 留学生の受け入れ環境の充実
- 省エネルギーに配慮した整備
- 緑地の維持保全
- キャンパスライフを充実させる施設整備
- キャンパスとしてのシンボルの形成
- 施設、建物設備、インフラストラクチャーの老朽解消
- 狭隘化の解消
- 建物外観の統一化
- 幹線道路の歩車共存化
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの充実

活用方針

- 教育、研究施設の老朽改善
- 環境に配慮した建築設備、インフラストラクチャーの老朽改善
- 交流の場の創出
- 最先端の研究に対応できる環境の整備
- 留学生の受け入れ環境の充実
- 計画的な緑地と維持保全活動の実施
- 福利施設の利便性を考慮した整備
- 既存施設の有効活用
- 基幹環境整備による アカデミックゾーン環境の充実
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの充実

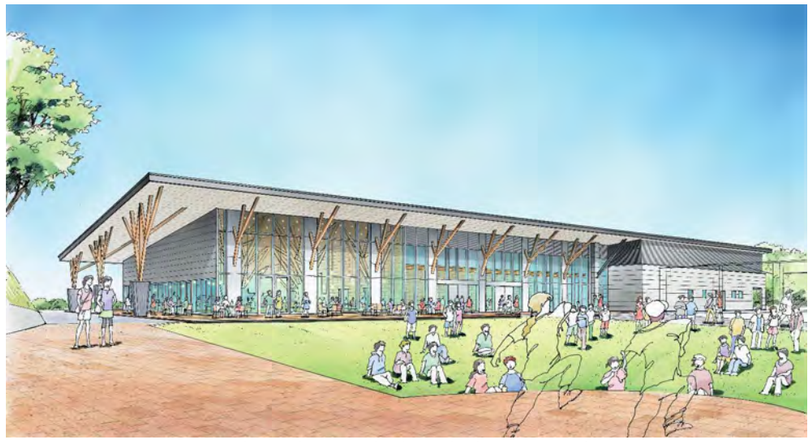
キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスのゾーニング計画



■凡例

管理施設ゾーン		幹線道路	
教育研究施設ゾーン		メインストリート	
運動施設ゾーン		主要な出入口	
共学ゾーン		上記以外の出入口	
共用ゾーン			
産学官研究連携ゾーン			
住居ゾーン			



平成28年3月完成の食堂イメージ

共用ゾーン

キャンパスの中心を通る歩行者専用の大通り「（仮称）カルチャードモール」を軸に、「共用ゾーン」を教育学部と経済学部の間及び食堂の周りに設定する。

「（仮称）カルチャードモール」と「共用ゾーン」は平面的に連続性があるため、空間に一体感が生まれる。学生・教職員は「（仮称）カルチャードモール」で“出会い”、たまりの場である「共用ゾーン」で“交流”を促す。

「（仮称）カルチャードモール」と「共用ゾーン」の空間は、これからの旦野原キャンパスのシンボルに位置づける。

管理施設ゾーン

全学の管理部門の中でも学生会館や保健管理センターなどの学生の利用率が高い施設をキャンパスの中心部に配置し、管理機能の充実を図る。「共用ゾーン」の隣に配置することで、学生にとっての利便性も向上する。

●ゾーニング計画の概要

旦野原キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。
キャンパス西側に工学部及び産学官研究連携ゾーンを配置する。
キャンパス中央部には教育学部、経済学部、福祉健康科学部、管理施設ゾーン、共学ゾーン、共用ゾーンを配置する。
キャンパス東側に運動施設ゾーン及び住居ゾーンを配置する。

教育研究施設ゾーン、産学官研究連携ゾーン

「教育研究施設ゾーン」「産学官研究連携ゾーン」は基本的に現在の位置を継承していく。上記の「共用ゾーン」「管理施設ゾーン」のゾーニング変更により、活性化を図っていく。

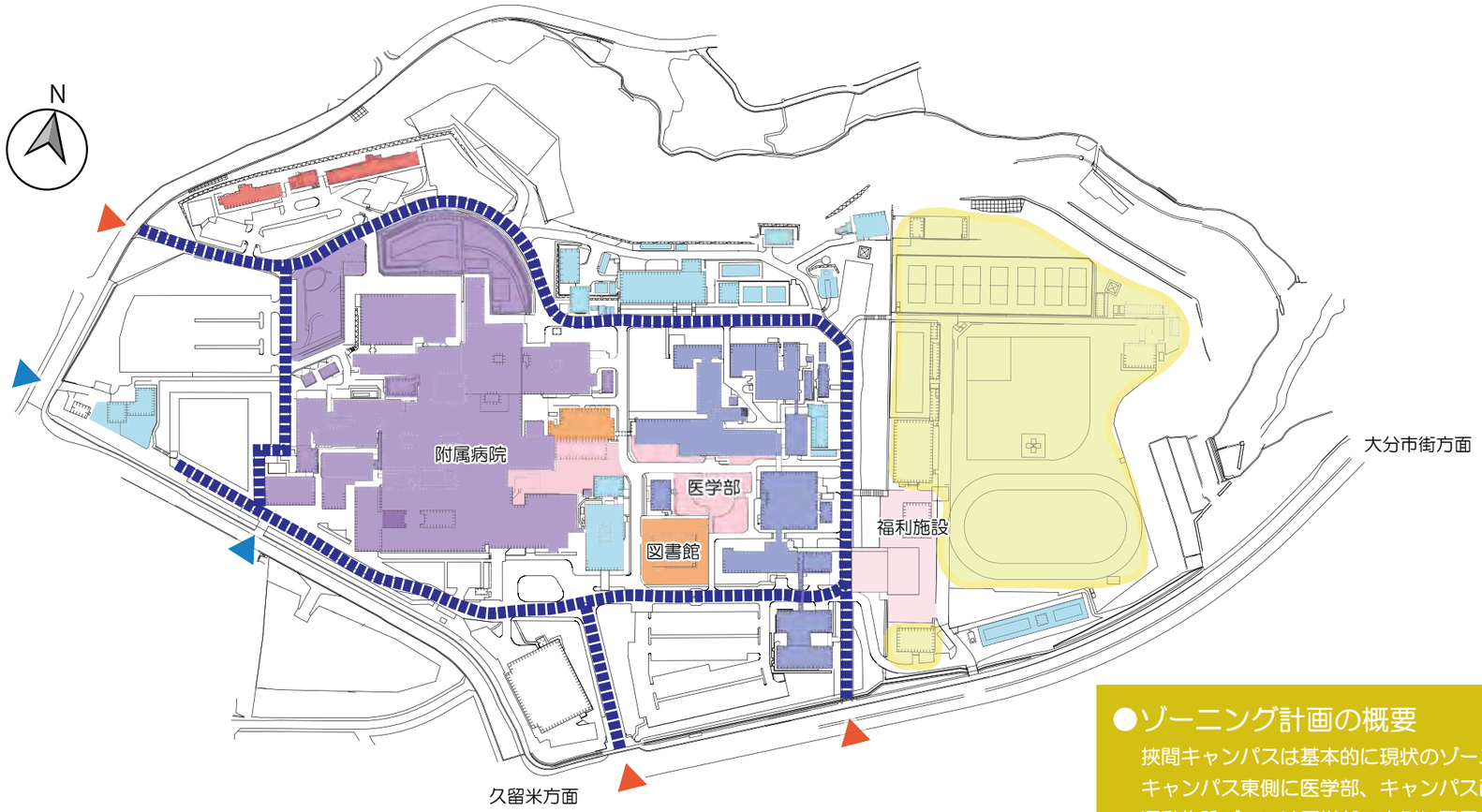
教育研究と産学官研究連携を高いレベルで行うための施設整備を行う。

運動施設ゾーン

「運動施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、機能向上を中心とした整備を図る。

キャンパス整備の部門別計画

挾間キャンパスのゾーニング計画



■凡例

管理施設ゾーン		幹線道路	
教育研究施設ゾーン		主要な出入口	▲
運動施設ゾーン		上記以外の出入口	▲
共学ゾーン			
共用ゾーン			
病院ゾーン			
住居ゾーン			

●ゾーニング計画の概要

挾間キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。
キャンパス東側に医学部、キャンパス西側に附属病院を配置する。
運動施設ゾーンは医学部の東側に配置する。

共用ゾーン

「共用ゾーン」は基本的に現在の位置を継承する。キャンパス東側の「共用ゾーン」は、福利施設を多層化し医学部からアクセスしやすい構造にすることにより利便性の向上を図る。また、福利施設周りには学生たちの交流が増えるための整備を行う。

管理施設ゾーン

「管理施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、機能向上を中心とした整備を図る。

教育研究施設ゾーン

「教育研究施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、教育研究を高いレベルで行うための施設整備を行う。

病院ゾーン

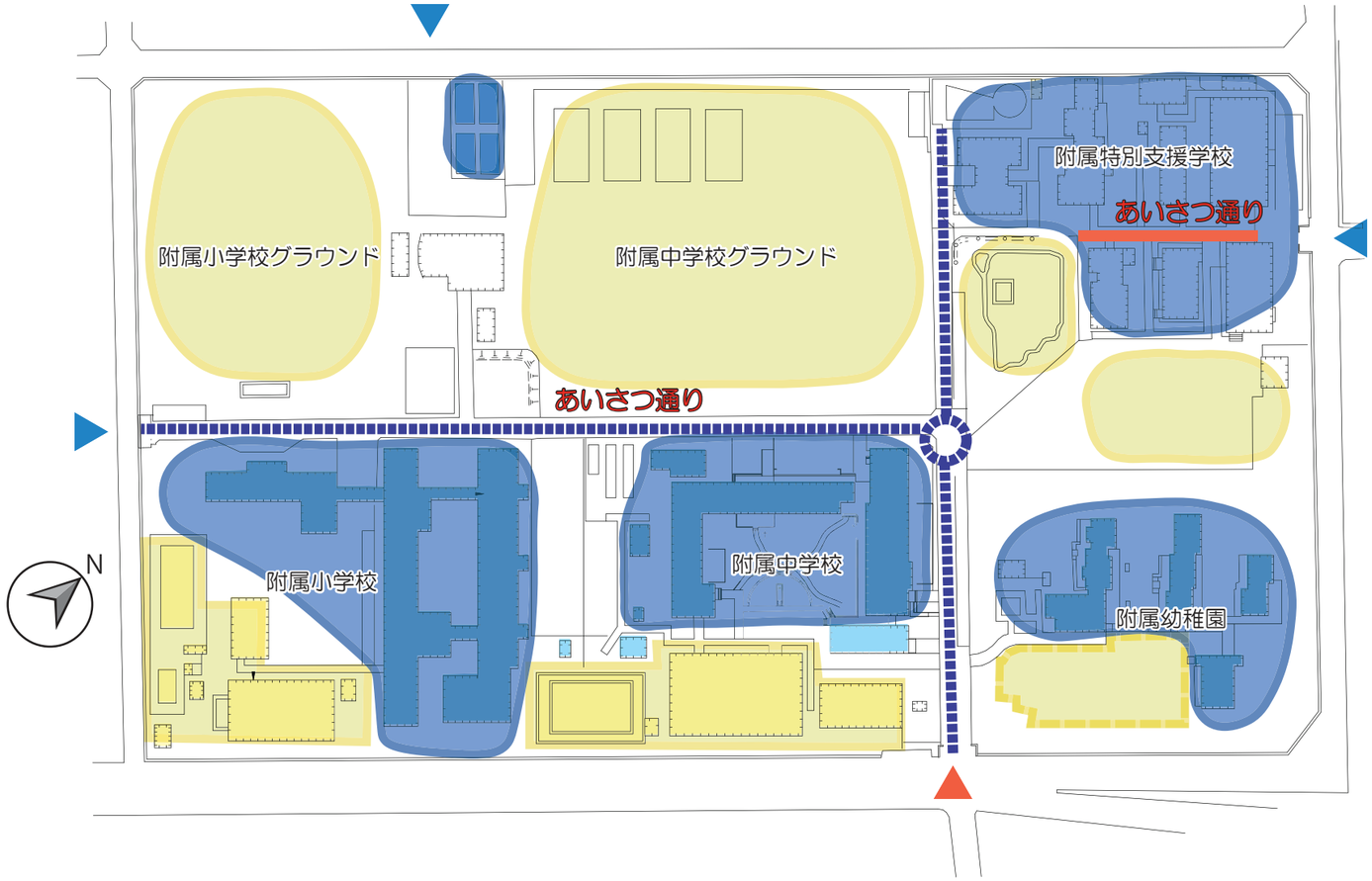
「病院ゾーン」は基本的に現在の位置を継承する。現在、特定機能病院としての機能向上を目的とした再整備を行っており、平成30年3月完了予定である。

運動施設ゾーン

「運動施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、機能向上を中心とした整備を図る。

キャンパス整備の部門別計画

王子キャンパスのゾーニング計画



■凡例

教育研究施設ゾーン		歩行者道路	
運動施設ゾーン		主要な出入口	▲
幹線道路		上記以外の出入口	▲

●ゾーニング計画の概要

王子キャンパスは基本的に現状のゾーニングを継承する。
配置図向かって左より附属小学校、中央に附属中学校、右下に附属幼稚園、
右上に附属特別支援学校を配置する。

教育研究施設ゾーン

「教育研究施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、教育研究を高いレベルで行うための施設整備を行う。

運動施設ゾーン

「運動施設ゾーン」は基本的に現在の位置を継承し、機能向上を中心とした整備を図る。

キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスのパブリックスペース計画

旦野原キャンパスのパブリックスペース計画の基本方針

屋外スペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」、「交流を生み出す空間」、「歩いて楽しい空間」、「印象付けられる空間」に整備する。多様な利用者がくつろぎや景色の鑑賞ができるよう、植栽との調和を図った環境を整備し、潤いのある空間づくりを行う。
ここでは、代表的なものとして教育学部と経済学部の間の共用ゾーンについて記載する。

教育学部と経済学部の間の共用ゾーン

教育学部と経済学部の間の共用ゾーンは、「（仮称）カルチャードモール」から教育学部、経済学部及び福祉健康科学部の学生の交点であり、「学部間の交流」が頻繁に行われるスペースである。

このスペースのモニュメントや記念樹を活かしながら、利用者がくつろげるベンチ等を設け、色合いは建物の外観と統一化を図る。

このスペースの整備により、学部を超えた交流が生まれ、多角的見地を持つ学生の育成に寄与することができる。

教育学部と経済学部の間の共用ゾーンのイメージ

挾間キャンパスのパブリックスペース計画

挾間キャンパスのパブリックスペース計画の基本方針

屋内外のスペースを中心に「キャンパス生活を豊かにする空間」、「交流を生み出す空間」、「歩いて楽しい空間」、「印象付けられる空間」に整備する。多様な利用者がくつろぎや景色の鑑賞ができるよう、植栽との調和を図った環境を整備し、潤いのある空間づくりを行う。
ここでは、代表的なものとして福利施設周りの共用ゾーンについて記載する。

福利施設周りの共用ゾーン

福利施設周りの共用ゾーンは、医学部の建物がある敷地よりも一段下がったスペースに位置し、また医学部中心部より離れているため利便性が悪い。

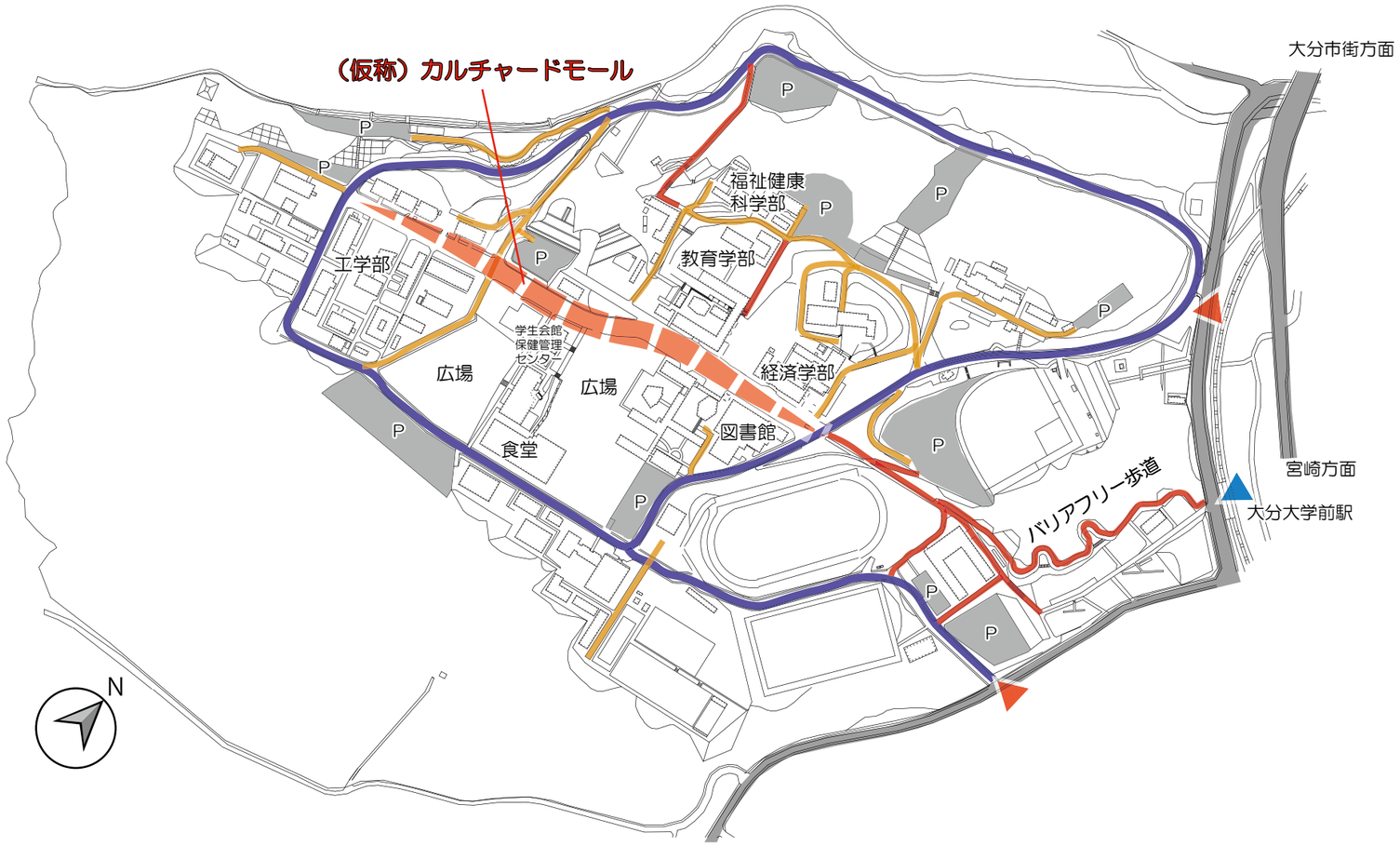
このスペースの福利施設１棟を３階建てに建替える。敷地の高低差を利用し２階にメイン出入口を設け、３階は医学部の建物と渡り廊下でつなぐことにより、アクセスの向上を図る。内部は１階にサークル関連諸室、２階に食堂、３階に喫茶兼自習室を計画し、キャンパス生活のアメニティーの向上を図る。外部は１階周りは芝生、２階周りインターロッキング舗装とし、利用者がくつろげるベンチ等を設ける。

このスペースの整備により、学生、教職員のアメニティーを向上させることができる。

福利施設周りの共用ゾーンのイメージ

キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスの動線計画



■凡例

メインストリート	
幹線道路	
歩行者専用道路	
一般道路	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
駐車場	

歩行者動線

歩行者動線は幹線道路の内側に設定し、車両の進入を抑制して歩行者の安全を図る。歩行者専用道路「（仮称）カルチャードモール」と車両動線との取り合いには車両を抑制する工夫（バリカー、プランター等）を施す。

大分大学が目指す福祉教育・福祉社会の充実を実践すべく、ユニバーサルデザインに配慮した整備を行う。

駐車場

駐車場はループ状の幹線道路沿いに配置し、キャンパス中心部への車両進入を抑制する。主要な駐車場としては、南西側に計300台以上のものを整備し、野球場横に計150台以上のものを整備する。

現在の藤蔭保管庫の敷地も将来的に駐車場を計画し、計40台以上の確保を図る。

車両動線

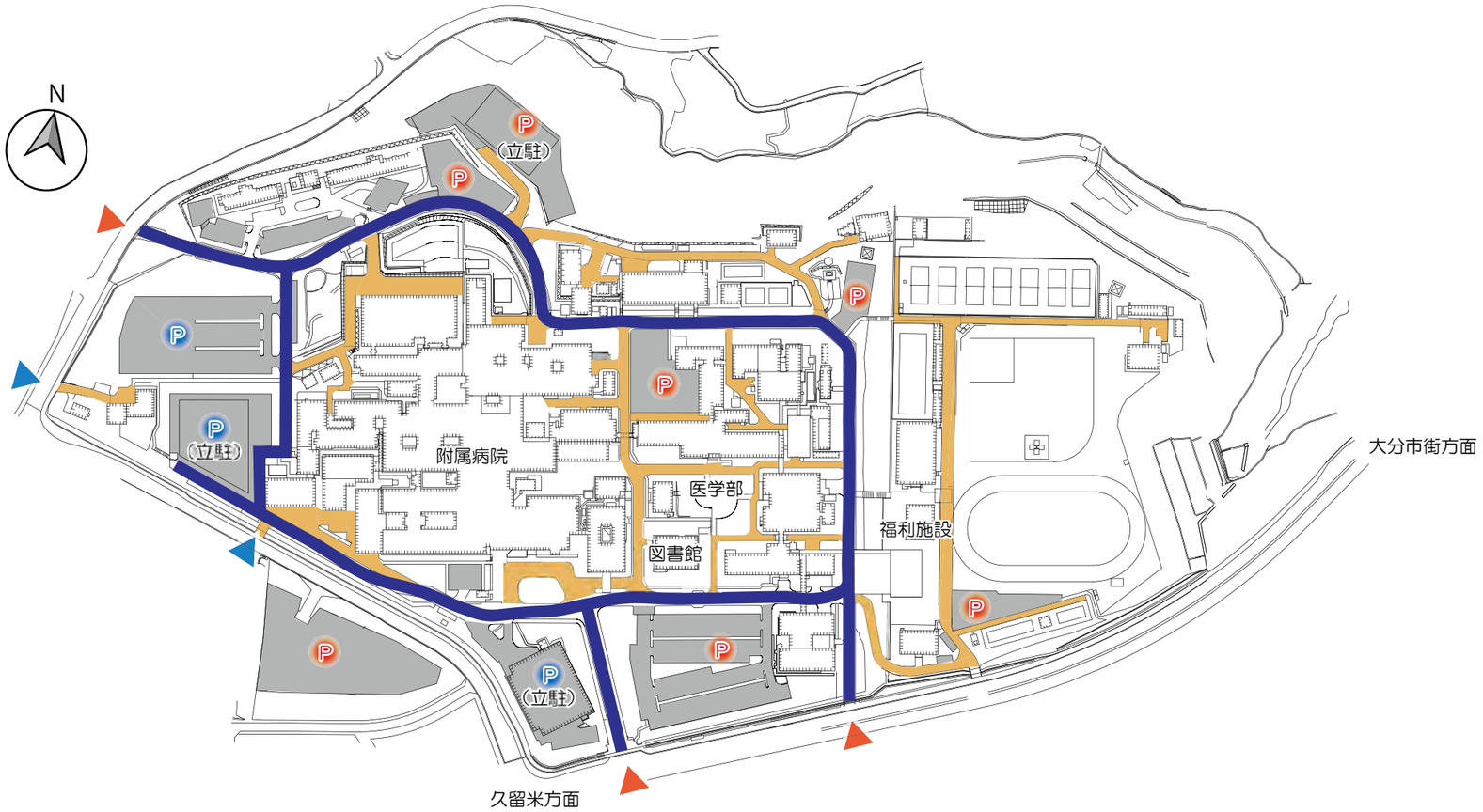
主要な歩行者動線の安全性確保のため、幹線道路を構内外周にループ状に配置し、歩行者動線との分離及び共存を図る。

幹線道路は基本的に片側一車線と歩道を確保し、歩者共存を図る。一般道路は幹線道路から各ゾーンへアクセスする支線とし、歩道等は設けず十分な幅員を確保し、歩者共存を図る。

歩行者専用道路は基本的に車両抑制する仕組みとするが、緊急時等は車両が進入できる仕組みとする。

キャンパス整備の部門別計画

挾間キャンパスの動線計画



■凡例

幹線道路	
一般道路	
主要な出入口	
上記以外の出入口	
駐車場	
学生及び教職員専用駐車場	P
外来専用駐車場	P

車両動線

幹線道路は構内にループ状に配置する。

幹線道路は基本的に片側一車線と歩道を確保し、歩者共存を図る。一般道路は幹線道路から各ゾーンへアクセスする支線とし、仕組みは現在のものを継承する。キャンパス内の渋滞緩和策として学生及び教職員専用出入口を新たに南側に一箇所設置し、西側の学生及び教職員専用出入口を拡幅し、南側のメイン出入口の通行量の軽減を図る。

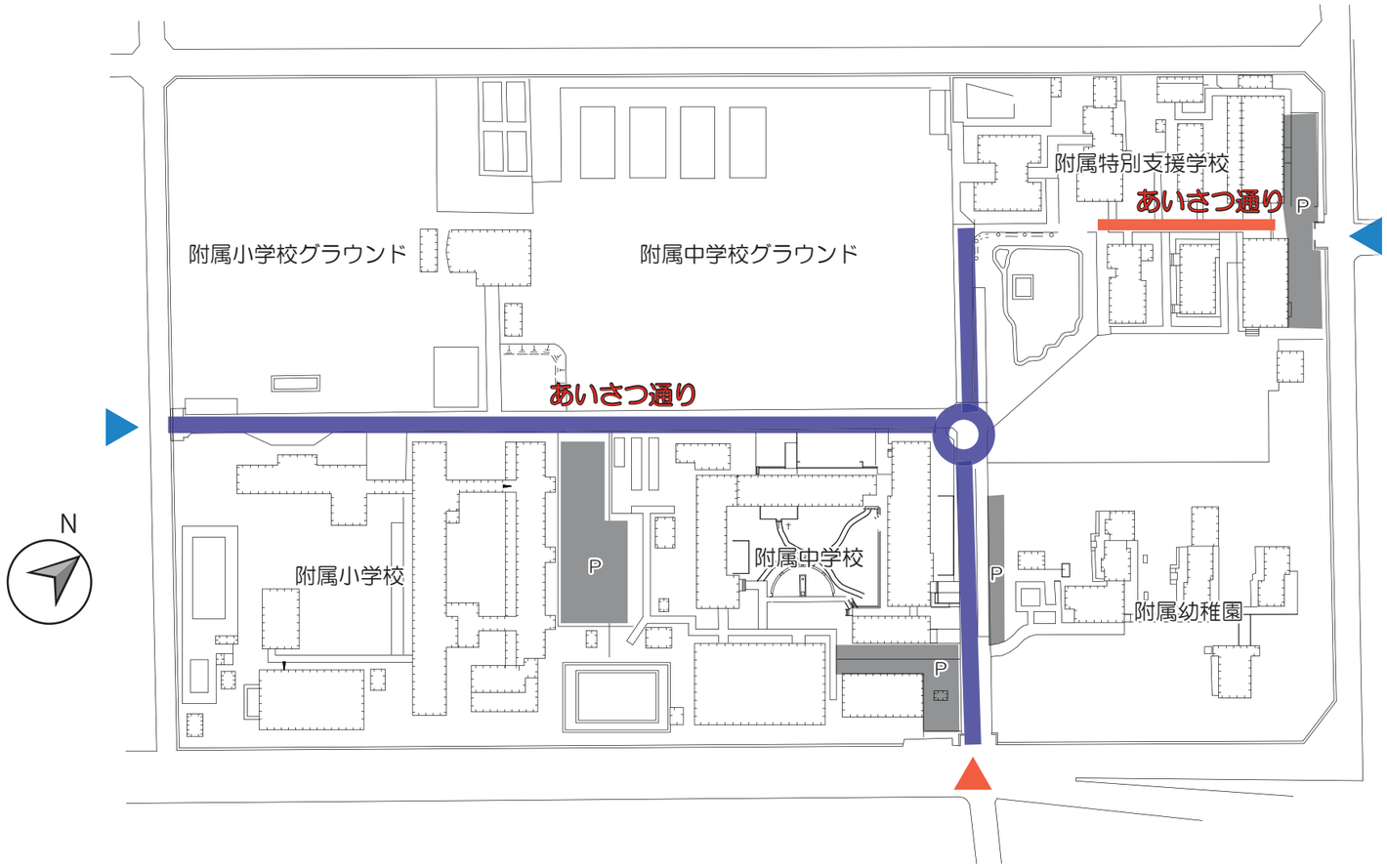
駐車場

駐車場は基本的に幹線道路沿いに配置し、キャンパス中心部への車両進入を抑制する。

キャンパス西側の駐車場を外来専用、その他の駐車場を学生及び教職員専用と明確に分ける。主な駐車場の整備として、西側に計300台以上で外来専用の立体駐車場を整備し、北側に計350台以上で学生及び教職員専用の立体駐車場を整備する。

キャンパス整備の部門別計画

王子キャンパスの動線計画



■凡例

幹線道路	
歩行者専用道路	
主要な出入口	▲
上記以外の出入口	▲
駐車場	

王子キャンパス「あいさつ通り」イメージ

歩行者動線

歩行者動線は、附属中学校及び附属小学校前の「あいさつ通り」と幹線道路で分断された敷地内に配置する。

駐車場

駐車場は基本的に幹線道路沿いに配置する。

車両動線

幹線道路は敷地縦横二本配置する。基本的に片側一車線と歩道を確保する。キャンパス内の渋滞緩和策として、転回できる仕組みを設ける。

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスのサスティナブルキャンパス計画

地球環境への配慮が環境負荷の大きな企業や大学・高等教育機関に求められている中、大分大学は地域の環境形成のモデルとなるべく、サスティナブルキャンパス構築へ向けて更なる取り組みを行っていく。

省エネルギー・啓発活動・環境配慮計画

省エネルギーに向けた取り組みとして、エネルギー使用量削減目標を設定するとともに、使用実績を学内ホームページ等や環境報告書で公表しエネルギー節減に向けた意識の啓発を図っている。また、環境配慮計画を策定しており、工事等に伴い以下の取り組みを行っている。

断　熱：屋根・床・壁等の断熱化。断熱効果の高い窓ガラスの採用。
照　明：自然採光を活用。高効率な機器の採用。照度に応じた点滅や調光を行うシステムの採用。
空　調：自然通風を活用。高効率な機器の採用。
その他：消費エネルギーを監視する設備システム・運転管理システムの採用。

今後は更なる取り組みを実施し、エネルギー消費抑制を図る。

使用電力マップ（学内ホームページ）

環境報告書

運転監視システム

廃棄物排出抑制・環境保全活動

廃棄物排出抑制に向けた取組として、全職員対象のゴミの分別を行いリサイクルを行っている。また、環境保全活動の取組として、教職員は年１回構内清掃活動を行っている。学生は学生団体が定期的にクリーン大作戦と題した清掃活動を行っている。また学園祭では、「ごみステーション」を特設してごみの一括回収や環境啓発活動を行っている。

今後も廃棄物排出抑制及び環境保全活動を行い、資源の無駄遣いや環境を汚すことのないキャンパスを目指す。

ごみステーション

構内清掃活動

キャンパス＝実験の場

環境問題に対する実験の場に向けた取り組みとして、大分大学と大学発ベンチャー企業で研究開発した「改質フライアッシュ」を用いたコンクリートの実証実験を行っている。

改質フライアッシュを用いたコンクリートは耐久性が高く環境負荷が低い特徴を持っており、このコンクリートを用いたコンクリート舗装をキャンパス内に施工し、今後２０年に品質面・環境面にどのような影響を与えるかを調査している。また実物大のコンクリート住宅模型も作製し、通常のコンクリートとの影響の差を調査している。

今後も、最先端の環境配慮技術に取り組む実験の場としてキャンパスを提供する。

改質フライアッシュを用いたコンクリート舗装

改質フライアッシュを用いた住宅模型

エネルギー創出・供給

エネルギー創出に向けた取組として、学内に太陽光発電システム・風力発電システムを設置し、低炭素型のエネルギー創出を行っている。また、これらのシステムを使い、学生実験・講義を行っており、自然エネルギーの有効利用に関する理解を深めるとともに、公開講座等で地域住民への教材としても活用している。

今後は、工事に伴い再生可能な自然エネルギーの活用を積極的に図り、環境に優しいエネルギー供給の仕組みを構築する。

太陽光発電システム

風力発電システム

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画

主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画の基本方針

インフラストラクチャー更新は緊急性を要するものを除き、災害に対して耐久性がないもの、耐用年数を基準に老朽化率が高いものから計画を行うこととする。詳細な更新計画については短期整備行動計画にて計画する。

※短期整備行動計画：工事金額、更新範囲、緊急度等を検討し、更新計画を年次計画表にまとめたもの。

■インフラストラクチャーの種類

配管・配線等：屋外給水管、屋外排水管、屋外ガス管、屋外電力線、屋外通信線

設備等：屋外照明設備、受変電設備、自家発電設備、中央監視制御設備、受水槽設備
排水処理設備、冷凍機設備、ボイラー設備、新エネルギー利用設備
空調設備、エレベーター設備等

■旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの現状　※平成27年5月1日現在

※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率
屋外給水管	20年	6,916m	6,544m	94.6%
屋外排水管	20年	6,262m	6,021m	96.2%
屋外ガス管	20年	4,392m	2,241m	51.0%
屋外電力線	20年	11,313m	2,112m	18.7%
屋外通信線	20年	29,331m	2,818m	9.6%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率
屋外照明設備	163灯	3灯	1.8%

■挾間キャンパスのインフラストラクチャーの現状　※平成27年5月1日現在

※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率
屋外給水管	20年	4,128m	2,821m	68.3%
屋外排水管	20年	5,139m	5,139m	100%
屋外ガス管	20年	2,376m	1,939m	81.6%
屋外電力線	20年	10,676m	6,085m	57.0%
屋外通信線	20年	15,456m	4,679m	30.1%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率
屋外照明設備	129灯	1灯	0.8%

■王子キャンパスのインフラストラクチャーの現状　※平成27年5月1日現在

※老朽化率：「耐用年数以上の数値／キャンパス全体の数値」で表され、老朽化率が高いほど老朽化していることを示す。

※LED化率：「LEDタイプの数値／キャンパス全体の数値」で表され、LED化率が高いほど屋外照明設備にLEDが使われていることを示す。

	耐用年数	キャンパス全体	耐用年数以上	老朽化率
屋外給水管	20年	2,195m	1,822m	83.0%
屋外排水管	20年	2,054m	1,547m	75.3%
屋外ガス管	20年	1,031m	512m	49.7%
屋外電力線	20年	4,865m	60m	1.2%
屋外通信線	20年	6,293m	1,285m	20.4%

	キャンパス全体	LEDタイプ	LED化率
屋外照明設備	23灯	0灯	0%

キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスのインフラストラクチャー計画

旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの現状

「主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」及び「屋外照明設備」の現状の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の現状

旦野原キャンパスの屋外排水管の96.2%が経年20年を過ぎて老朽化しており、排水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。

■凡例

排水管経年20年以上（1995年以前）	
排水管経年20年未満（1996年以降）	
大分市公共下水道	
共同溝	

屋外照明設備の現状

旦野原キャンパスの屋外照明設備の55.8%が150wの省エネタイプの水銀灯を設置している。各学部、教養、体育施設付近は消費電力の高い300～400wの水銀灯が設置されている。

現在76wのLEDタイプの屋外照明設備は3灯設置されており、全体の1.8%を占めている。

■凡例

LEDタイプ以外	
LEDタイプ	

屋外給水管の現状

旦野原キャンパスの屋外給水管の94.6%が経年20年を過ぎて老朽化しており、給水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。

屋外ガス管の現状

旦野原キャンパスの屋外ガス管の51.0%が経年20年を過ぎて老朽化しており、その全てがキャンパスのメイン管であるため、ガス漏れなどの事故が発生した場合、キャンパス全体のガス設備機能が停止する危険性及び爆発の危険性がある。耐震性については97.7%の配管が耐震性を有している。

屋外電力線の現状

旦野原キャンパスの屋外電力線は経年20年を過ぎて老朽化しているものが18.7%である。

屋外通信線の現状

旦野原キャンパスの屋外通信線は経年20年を過ぎて老朽化しているものが9.6%である。

受変電設備の現状

旦野原キャンパスの受変電設備は屋外キュービクル2箇所と屋内受変電設備1箇所の老朽化が認められる。

受水槽設備の現状

旦野原キャンパスの受水槽設備は経年20年を過ぎており、ポンプ等の老朽化が認められる。

空調設備の現状

旦野原キャンパスの空調設備は電気式空調機及びガス式空調機を設置しており、一部老朽化が認められる。

エレベーター設備の現状

旦野原キャンパスのエレベーター設備は現行の法基準に適応していないものがある。

キャンパス整備の部門別計画

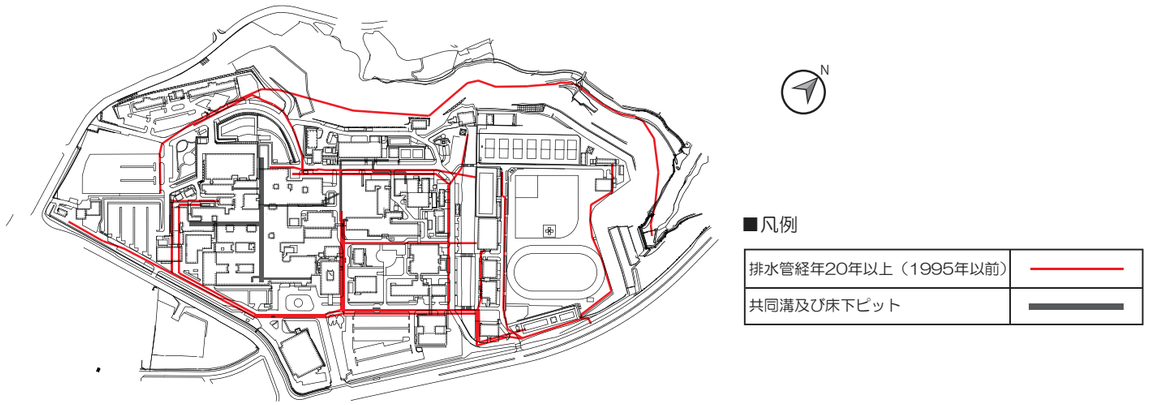
挾間キャンパスのインフラストラクチャー計画

挾間キャンパスのインフラストラクチャーの現状

「主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」及び「屋外照明設備」の現状の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の現状

挾間キャンパスの屋外排水管の100%が経年20年を過ぎて老朽化しており、排水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。



屋外照明設備の現状

挾間キャンパスの屋外照明設備の40.3%が150wの省エネタイプの水銀灯を設置している。58.9%は消費電力の高い100～200wの水銀灯が設置されている。

現在140wのLEDタイプの屋外照明設備が1灯設置されており、全体の0.8%を占めている。

また一部支柱及び線路の老朽化が認められる。

屋外給水管の現状

挾間キャンパスの屋外給水管の68.3%が経年20年を過ぎて老朽化しており、給水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。

屋外ガス管の現状

挾間キャンパスの屋外ガス管の81.6%が経年20年を過ぎて老朽化しており、ガス漏れなどの事故が発生した場合、キャンパス全体のガス設備機能が停止する危険性及び爆発の危険性がある。耐震性については80.9%の配管が耐震性を有している。

屋外電力線の現状

挾間キャンパスの屋外電力線の57.0%が経年20年を過ぎて老朽化している。特別高圧受変電室側の全ての電力線が経年30年を過ぎており、事故が発生した場合キャンパス全体の電力機能が停止する恐れがある。

屋外通信線の現状

挾間キャンパスの屋外通信線は経年20年を過ぎて老朽化しているものが30.1%である。

受変電設備の現状

挾間キャンパスの受変電設備はほとんどが経年35年を過ぎて老朽化しており、電気事故が発生した場合、長時間停電する恐れがある。

受水槽設備の現状

挾間キャンパスの受水槽設備は受水槽が経年15年、高置水槽が経年30年を過ぎており、ポンプ等の老朽化が認められる。

空調設備の現状

挾間キャンパスの空調設備は電気式空調機及びガス式空調機を設置しており、電気式空調機には老朽化が認められる。

エレベーター設備の現状

挾間キャンパスのエレベーター設備は一部現行の法基準に適応していないものがある。

キャンパス整備の部門別計画

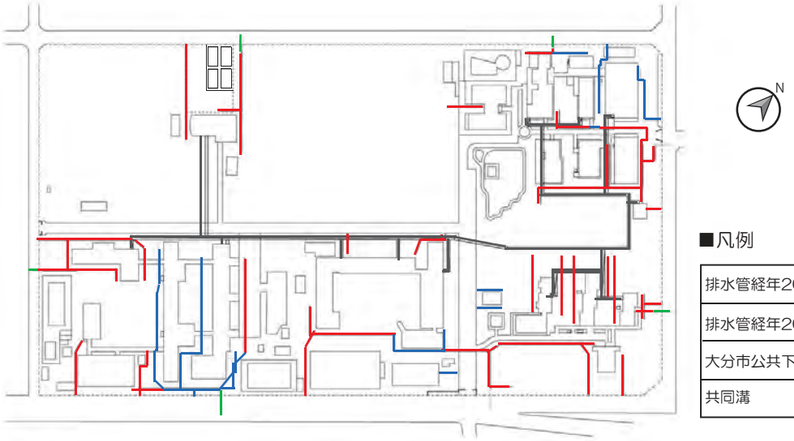
王子キャンパスのインフラストラクチャー計画

王子キャンパスのインフラストラクチャーの現状

「主要３キャンパスのインフラストラクチャー計画」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」及び「屋外照明設備」の現状の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の現状

王子キャンパスの屋外排水管の75.3%が経年20年を過ぎて老朽化しており、排水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。



■凡例

排水管経年20年以上（1995年以前）	
排水管経年20年未満（1996年以降）	
大分市公共下水道	
共同溝	

屋外照明設備の現状

王子キャンパスの屋外照明設備の61%が150wの省エネタイプの水銀灯を設置している。39%は消費電力の高い100～200wの水銀灯が設置されている。

現在LEDタイプの屋外照明設備は設置されていない。

また一部支柱及び線路の老朽化が認められる。

■凡例

LEDタイプ以外	●
LEDタイプ	●

屋外給水管の現状

王子キャンパスの屋外給水管の83.0%が経年20年を過ぎて老朽化しており、給水漏れの危険性がある。また全ての配管が耐震性を有していない。

屋外ガス管の現状

王子キャンパスの屋外ガス管の49.7%が経年20年を過ぎて老朽化しており、その全てが附属中学校及び附属小学校である。ガス漏れなどの事故が発生した場合、ガス設備機能が停止する危険性及び爆発の危険性がある。耐震性については99.6%の配管が耐震性を有している。

屋外電力線の現状

王子キャンパスの屋外電力線は経年20年を過ぎて老朽化しているものが1.2%である。

屋外通信線の現状

王子キャンパスの屋外通信線は経年20年を過ぎて老朽化しているものが20.4%である。

受変電設備の現状

王子キャンパスの受変電設備は全て更新している。

受水槽設備の現状

王子キャンパスの受水槽設備は経年20年を過ぎており、ポンプ等の老朽化が認められる。

空調設備の現状

王子キャンパスの空調設備は電気式空調機及びガス式空調機を設置しており、一部老朽化が認められる。

エレベーター設備の現状

王子キャンパスのエレベーター設備は現行の基準に適応していないものがある。

キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスのインフラストラクチャー計画

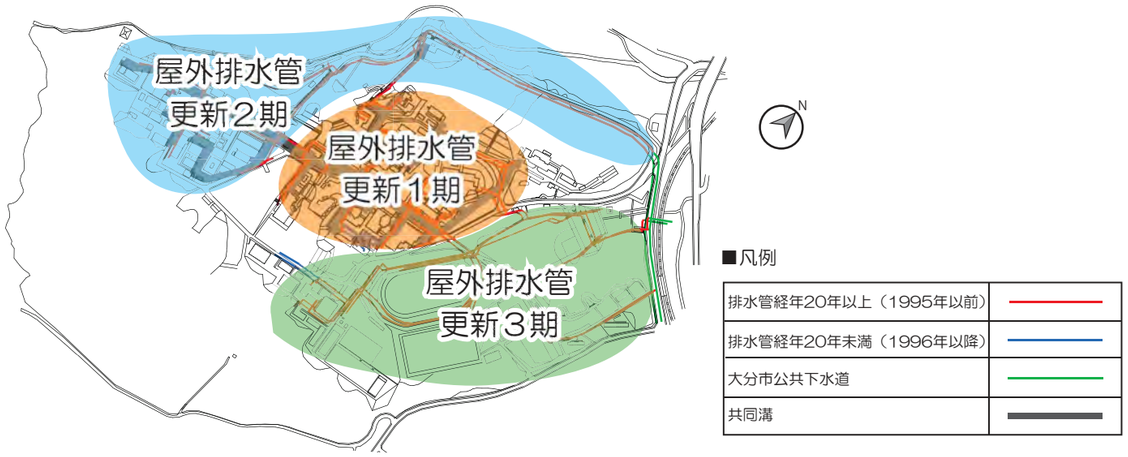
旦野原キャンパスのインフラストラクチャー更新計画

「旦野原キャンパスのインフラストラクチャーの現状」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」の更新計画の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。また更新に関する年次計画表についても短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の更新計画

旦野原キャンパスの屋外排水管の更新は、3期に分けて行うものとする。施工方法については、基本的に掘削を伴わない管路更新工法を採用する。

※管路更新工法：既存の配管の内部に新たに硬質塩化ビニル製パイプを更正する工法



屋外照明設備の更新計画

旦野原キャンパスの屋外照明設備の更新は、全数をLED化する。

屋外給水管の更新計画

旦野原キャンパスの屋外給水管の更新は、老朽化しているものと耐震性を有していないものを優先に計画する。

屋外ガス管の更新計画

旦野原キャンパスの屋外ガス管の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外電力線の更新計画

旦野原キャンパスの屋外電力線の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外通信線の更新計画

旦野原キャンパスの屋外通信線の更新は、安全性・セキュリティに配慮し計画する。

受変電設備の更新計画

旦野原キャンパスの受変電設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

受水槽設備の更新計画

旦野原キャンパスの受水槽設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

空調設備の更新計画

旦野原キャンパスの空調設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

エレベーター設備の更新計画

旦野原キャンパスのエレベーター設備の更新は、現行の法基準に適合していないものを優先に計画する。

キャンパス整備の部門別計画

挾間キャンパスのインフラストラクチャー計画

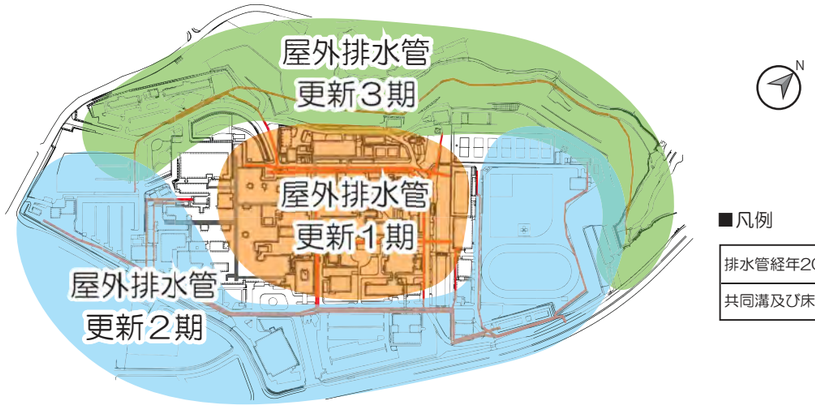
挾間キャンパスのインフラストラクチャー更新計画

「挾間キャンパスのインフラストラクチャーの現状」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」の更新計画の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。また更新に関する年次計画表についても短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の更新計画

挾間キャンパスの屋外排水管の更新は、3期に分けて行うものとする。施工方法については、基本的に掘削を伴わない管路更新工法を採用する。

※管路更新工法：既存の配管の内部に新たに硬質塩化ビニル製パイプを更正する工法



■凡例

排水管経年20年以上（1995年以前）	
共同溝及び床下ピット	

屋外照明設備の更新計画

挾間キャンパスの屋外照明設備の更新は、老朽化している支柱及び線路を行い、また全数をLED化する。

屋外給水管の更新計画

挾間キャンパスの屋外給水管の更新は、老朽化しているものと耐震性を有していないものを優先に計画する。

屋外ガス管の更新計画

挾間キャンパスの屋外ガス管の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外電力線の更新計画

挾間キャンパスの屋外電力線の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外通信線の更新計画

挾間キャンパスの屋外通信線の更新は、安全性・セキュリティに配慮し計画する。

受変電設備の更新計画

挾間キャンパスの受変電設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

受水槽設備の更新計画

挾間キャンパスの受水槽設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

空調設備の更新計画

挾間キャンパスの空調設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

エレベーター設備の更新計画

挾間キャンパスのエレベーター設備の更新は、現行の法基準に適合していないものを優先に計画する。

キャンパス整備の部門別計画

王子キャンパスのインフラストラクチャー計画

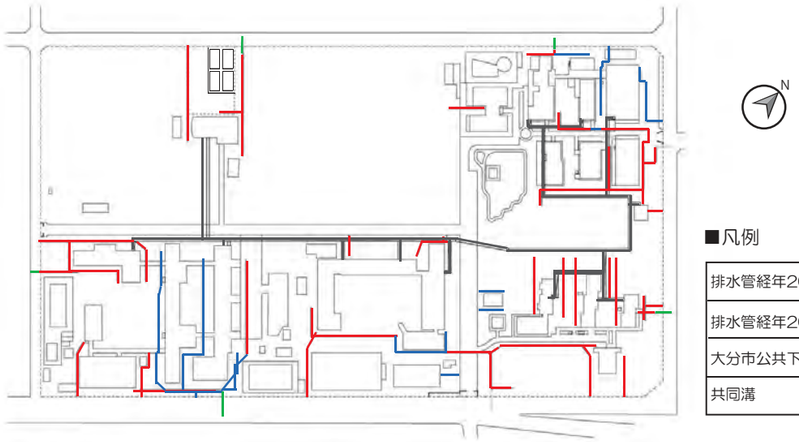
王子キャンパスのインフラストラクチャー更新計画

「王子キャンパスのインフラストラクチャーの現状」で記載したものの中から代表的なものとして「屋外排水管」の更新計画の図面を記載する。その他のインフラストラクチャーの図面については短期整備行動計画において計画する。また更新に関する年次計画表についても短期整備行動計画において計画する。

屋外排水管の更新計画

王子キャンパスの屋外排水管の更新は、工期分けせず行うものとする。施工方法については、基本的に掘削を伴わない管路更新工法を採用する。

※管路更新工法：既存の配管の内部に新たに硬質塩化ビニル製パイプを更正する工法



■凡例

排水管経年20年以上（1995年以前）	
排水管経年20年未満（1996年以降）	
大分市公共下水道	
共同溝	

屋外照明設備の更新計画

王子キャンパスの屋外照明設備の更新は、老朽化している支柱及び線路を行い、また全数をLED化する。

屋外給水管の更新計画

王子キャンパスの屋外給水管の更新は、老朽化しているものと耐震性を有していないものを優先に計画する。

屋外ガス管の更新計画

王子キャンパスの屋外ガス管の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外電力線の更新計画

王子キャンパスの屋外電力線の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

屋外通信線の更新計画

王子キャンパスの屋外通信線の更新は、安全性・セキュリティに配慮し計画する。

受変電設備の更新計画

王子キャンパスの受変電設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

受水槽設備の更新計画

王子キャンパスの受水槽設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

空調設備の更新計画

王子キャンパスの空調設備の更新は、老朽化しているものを優先に計画する。

エレベーター設備の更新計画

王子キャンパスのエレベーター設備の更新は、現行の法基準に適合していないものを優先に計画する。

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスの施設維持管理計画

教育研究環境を良好に保ち、施設利用者が快適に安心して施設を利用するために、保有する施設を健全に維持していく必要性があり、適切な維持管理、修繕及び改修を計画・実施し、施設の長寿命化へ向けて更なる取り組みを行う。

施設担当による施設パトロール

建物共用部分及び屋外環境について、施設担当職員と各部局担当職員が年１回施設パトロールを実施している。緊急に修繕を要するものについては、即時対応している。パトロール結果は財務・環境部門会議において報告を行っている。また、修繕計画に反映することにより次年度以降の財源確保の基礎資料としている。

専門業者による保守点検

エレベーター設備や受変電設備等、特殊なものについては点検業者に委託し、定期的に保守点検を行っている。

施設整備後のユーザーアンケートの実施

大規模改修工事を行った後、利用者に対するアンケートを実施している。結果については、財務・環境部門会議に報告をしている。また、アンケート結果を分析することにより、利用者のニーズ把握や改善点等を抽出し、今後の改修工事の参考としている。

施設パトロール１

施設パトロール2

工学部　施設整備完了後の利用者アンケート

別紙

平成27年 5月14日
財務環境部企画課

施設整備等を終了されたばかりで、利用者の皆様には、ご苦労をおかけいたしたことをお詫びいたします。
このアンケートは、今後本学の施設整備を行うにあたって、施設計画・設計等の参考とするためのものです。
大変恐縮ですが、施設整備を実施されたスペースの使用状況等をご記入ください。
アンケートの目的をご理解いただきまして、ご協力の程よろしくお願いいたします。
なお、お答えいただいた内容については、すべて匿名データとして処理しますので、ご安心ください。お答えの中にご記名されてしまうようなお答えは、ご遠慮願います。
【提出先】 財務部施設企画課主任専門員室　内線 7101　佐藤・江原

【一般事項】
Qあなたの属性についてお尋ねいたします
問1　あなたの性別を教えてください　（Q1は1つだけ）
1. 男性　　2. 女性
問2　あなたの学生等番号の末尾を教えてください　（Q1は1つだけ）
1. 1年生　2. 2年生　3. 3年生　4. 4年生　5. 院生　6. 教職員　7. その他
お問合せ１と回答されたお方はここまでで回答終了です。ありがとうございました。

Q教育環境について
問3-1　改修後の教育棟のデザインについて　（Q1は1つだけ）
1. あるべきだ　　2. 変わらない　　3. 悪いほうへ
問3-2　（問3-1で「1」と答えた人のみ）建物棟のデザインで良くなったと思うのはどれですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］
問3-3　（問3-1で「3」と答えた人のみ）建物棟のデザインで悪くなったと思うのはどれですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］
問4-1　改修後の室内環境について　（Q1は1つだけ）
1. 良くなった　　2. 変わらない　　3. 悪くなった
問4-2　（問4-1で「1」と答えた人のみ）室内環境で良くなったと思うのはどれですか？　（Q2は複数可）
1. 採光性　2. 明るい暗さ　3. 静粛　4. 空調設備　5. 設備機器（照明、放送）
6. 広さ　7. 色合い　8. その他（　　）
問4-3　（問4-1で「3」と答えた人のみ）室内環境で悪くなったと思うのはどれですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］
問5-1　改修後の教育環境により、教育・研究の向上が期待されると思いますか？
（Q3は1つだけ）
1. 期待できる　　2. つまらず変わらない　　3. 期待できない
問5-2　（問5-1で「1」と答えた人のみ）教育・研究の向上が期待できる点はどれですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］
問5-3　（問5-1で「3」と答えた人のみ）教育・研究の向上が期待できない点は何ですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］

Q共用スペースについて
問6-1　共用施設等は、適切だと思いますか？　（Q4は1つだけ）
1. 適切　　2. 比較適切　　3. やや不適
問6-2　（問6-1で「3」と答えた人のみ）毎日清掃がやり方だと思うのはどれですか？
（それぞれ複数可）
（答えてください）［　　］

2枚目に続く

ユーザーアンケート用紙

主要３キャンパスの施設有効利用計画

稼働率の低い部屋の利用形態を見直し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえながら、既存スペースを適切に配分し、施設の有効利用を積極的に行う。

有効利用調査の実施

「国立大学法人大分大学施設有効利用に関する規程」に基づき、３年に１度施設の有効利用調査を実施している。また、退職者等で引継ぎのあった部屋については、毎年調査を実施し施設利用状況を把握し、効果的運用を行っている。

退職者で引継ぎのあった部屋の現地調査

現地調査で指摘のあった部屋の処置済状況

大型改修等に伴う共同利用スペースの確保

「国立大学法人大分大学施設有効利用に関する規程」に基づき、校舎の大規模改修等を行う場合はスペースの再構築により教育及び研究の活性化とスペースの有効利用を図るため、共用スペースの創出に努めている。

改修工事の際に整備した学生ラウンジ１

改修工事の際に整備した学生ラウンジ２

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスのサイン計画

学生、生徒及び教職員のみならず、様々な来訪者にも配慮したサインを計画する。今後詳細な計画については、ワーキンググループを設置し審議を行い決定していく。

サインの現状

主要３キャンパスのサインの現状として以下のものがある。

- サインの大きさ、形、色彩等に統一性が無い。
- 表現方法が統一されていない。
- 仮設サインが乱立している。
- 樹木に覆われサインとして機能していないものがある。
- 劣化したサインがある。

案内サイン（旦野原キャンパス）１

案内サイン（旦野原キャンパス）２

案内サイン（挾間キャンパス）

施設名称サイン（旦野原キャンパス）１

施設名称サイン（旦野原キャンパス）２

施設名称サイン（挾間キャンパス）

サインの基本方針

サインの基本方針は以下のとおりとする。

- サインデザインの統一
  フォントを統一する。
  視距離による文字サイズを設定する。
- 表現方法の統一
  棟名称、棟番号等の表記を統一する。
- 情報の集約化
  乱立を防ぐため適切な設置位置と表示方法を検討する。
- ユニバーサルデザイン
  多言語表記を行う。
  外国人にも共通認識できるピクトグラムの採用。
  色覚に留意した色の組合せとする。
  車椅子使用者に配慮した掲示高さ。
- メンテナンスのしやすい構造・仕様
  耐久性の高い素材の採用。

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスのユニバーサルデザイン計画

ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を計画し、多様な人々が利用しやすいキャンパスを目指す。

※ユニバーサルデザイン：国籍、民族、人種、性別、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人々が利用しやすいデザインをする考え方。

ユニバーサルデザインの施設整備

建物を新築及び改修するにあたり、出入口の自動ドア、スロープ、手摺、多目的トイレ、エレベーターを計画する。車イス使用者等が利用する駐車場は、建物出入口近くにわかりやすく安全な位置に確保する。サインは多様な人々が認知できるよう、言語、文字の大きさ、色、掲示高さ、点字表示に配慮する。屋外環境では、利用者の動線上に車両動線が交わらないよう配慮し、段差等の車イス使用者や視覚障がい者の障壁となるものは極力なくす。

出入口の自動ドア

スロープ、手摺

多目的トイレ

車イス使用者等が利用する駐車場

主要３キャンパスの災害対策

大規模災害が発生した場合、キャンパスが避難できる場所として使えるように施設整備を計画する。

災害対策の施設整備

大分大学では現在、旦野原キャンパス、挾間キャンパス、王子キャンパス、錦町団地に備蓄庫を設置し、防災活動に従事するために必要な機材や生活必需品を備えている。

旦野原キャンパスは災害用トイレを設置等、ライフラインが寸断された際に使用できるよう備えている。

挾間キャンパスは附属病院が災害拠点病院に指定されており、自家発電設備、無停電電源装置、地下水活用システムを設置し、災害時に対応できるよう備えている。

今後も大規模災害に対応できるよう更なる取組を行っていく。

備蓄庫

備蓄庫内部

災害用トイレ

自家発電設備

無停電電源装置

地下水活用システム

キャンパス整備の部門別計画

主要３キャンパスの緑地維持保全計画

主要3キャンパスの緑地維持保全計画の基本方針

旦野原キャンパス、挾間キャンパスには広大な緑地が残されており、そこは学生や教員の自然や環境などについて学ぶ教材として重要な役割を果たしている。

緑地には大気や水質の浄化機能、自然災害の防止・軽減機能、生物多様性の保全機能など様々な機能（生態系サービス）が備わっている。

これからのキャンパスは緑地を学習の場としてだけでなく、憩いの場、環境保全の場、生物多様性の保全の場としても捉え、そのための適切な管理方法を計画・実施し、自然環境と共生したキャンパスづくりを目指す。

管理方法

緑地の分類を活用・保全目的によって3つに分類する。

●学生・生徒生活ゾーン

定期的な点検及び手入れを行う。建物やインフラストラクチャー等に影響を与えそうなものは適切な対処を行う。

●バッファーゾーン

学生・生徒生活ゾーンと生物多様性保全ゾーンの干渉帯としての役割をもつ。定期的な点検及び必要な手入れを行う。建物やインフラストラクチャー等に影響を与えそうなものは適切な対処を行うが、大規模な植生の改変や工事等は極力行わない。

●生物多様性保全ゾーン

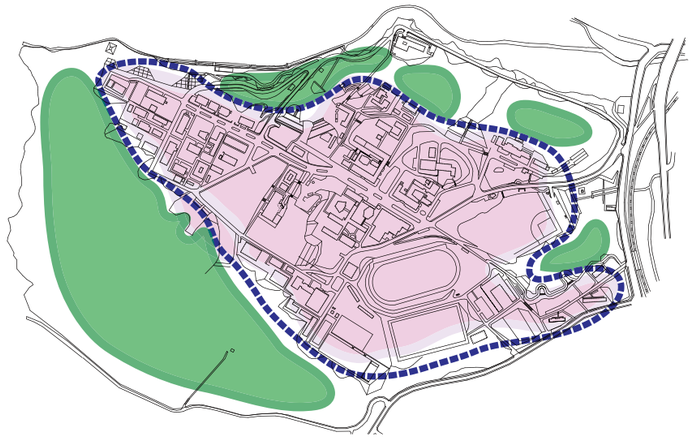
環境保全機能や生物多様性保全機能を損なわない管理を行う。人工物の建造や大幅な現状改変を行わない。

他地域の生物の持ち込みの禁止

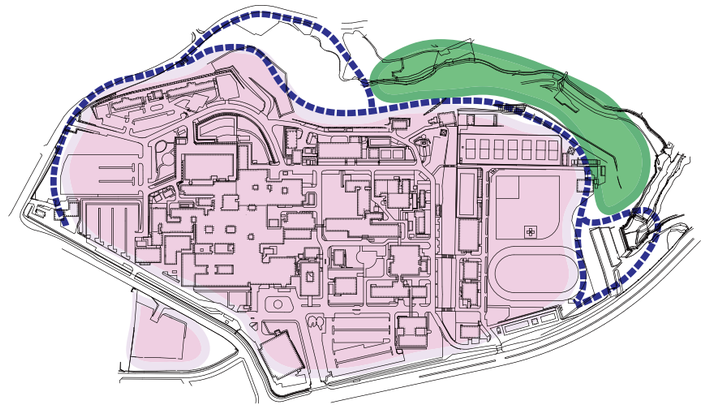
キャンパス内の在来生物の遺伝子撹乱を防ぐため、植栽を行う場合は他地域の生物を極力使用しないこととする。

生物多様性オフセットの実施

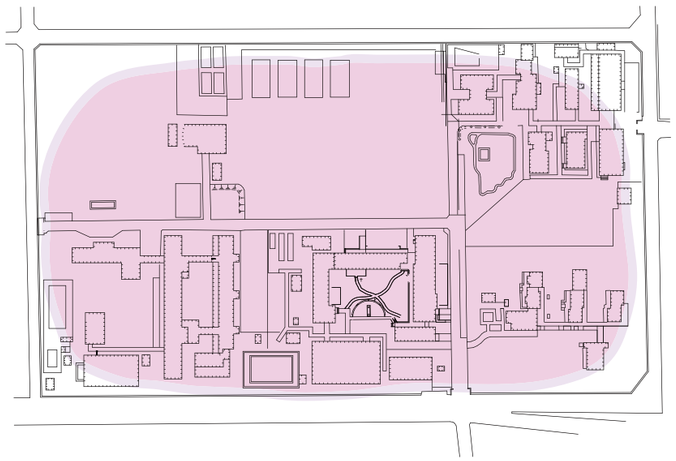
生物多様性ゾーンを開発する際、開発による生物多様性への影響を最小限に抑えるように努める。ただし、やむを得ず開発する場合、代替えの生物多様性ゾーンを整備することで、キャンパス全体の生物多様性の影響を代償（オフセット）する。



旦野原キャンパス



挾間キャンパス



王子キャンパス

■凡例

学生・生徒生活ゾーン	
バッファーゾーン	
生物多様性保全ゾーン	

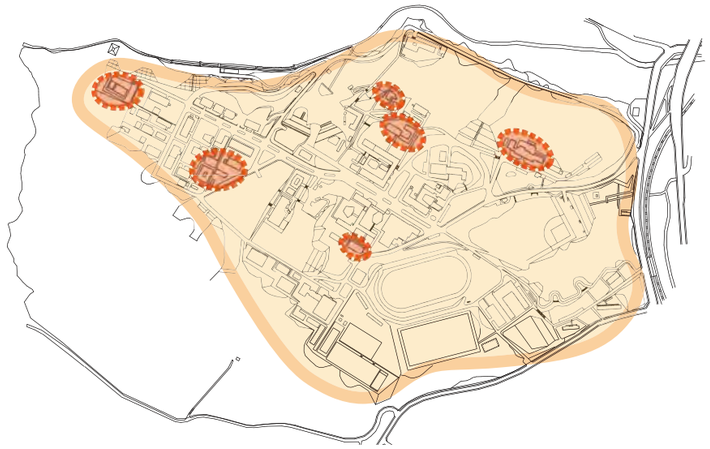
キャンパス整備の部門別計画

旦野原キャンパスの施設整備計画

旦野原キャンパスの施設整備計画

◆1st ステージ

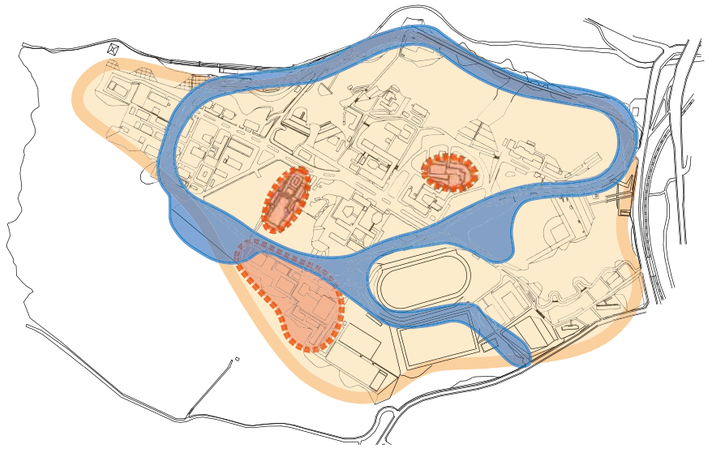
- 老朽施設の改修
- 大学の経営戦略に関わる整備
- インフラストラクチャー整備



凡例	
	老朽施設の改修
	大学の経営戦略に関わる整備
	インフラストラクチャー整備

◆2nd ステージ

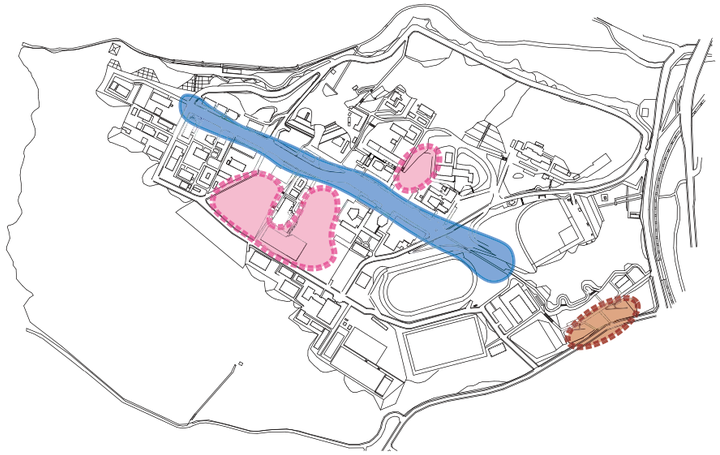
- 老朽施設の改修
- 大学の経営戦略に関わる整備
- 幹線道路等整備
- インフラストラクチャー整備
- サイン整備



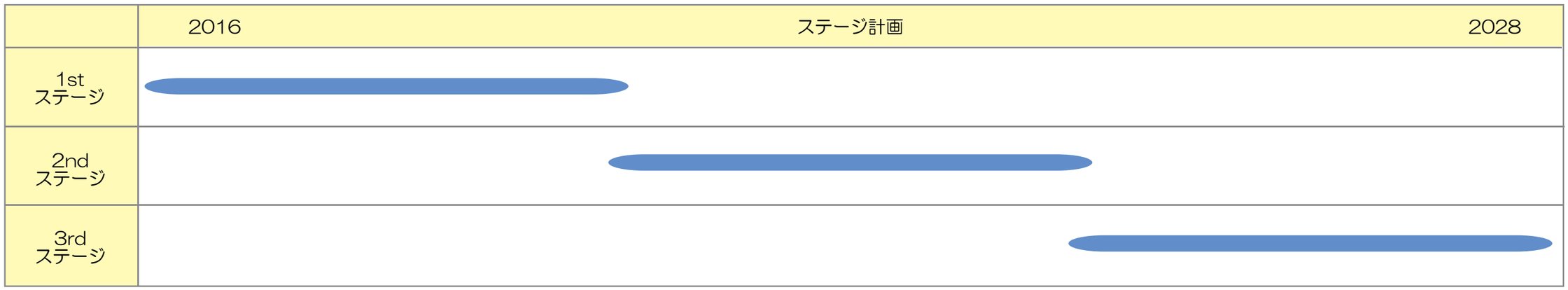
凡例	
	老朽施設の改修
	大学の経営戦略に関わる整備
	幹線道路等整備
	インフラストラクチャー整備

◆3rd ステージ

- 留学生受け入れ施設の整備
- 幹線道路等整備
- パブリックスペース整備



凡例	
	留学生受け入れ施設改修
	幹線道路等整備
	パブリックスペース整備



キャンパス整備の部門別計画

挾間キャンパスの施設整備計画

挾間キャンパスの施設整備計画

◆1st ステージ

- 附属病院再整備
- 老朽施設の改修
- 大学の経営戦略に関わる整備
- 幹線道路等整備
- インフラストラクチャー整備（附属病院・医学部）

凡例	
	附属病院再整備
	老朽施設の改修
	大学の経営戦略に関わる整備
	幹線道路等整備
	インフラストラクチャー整備

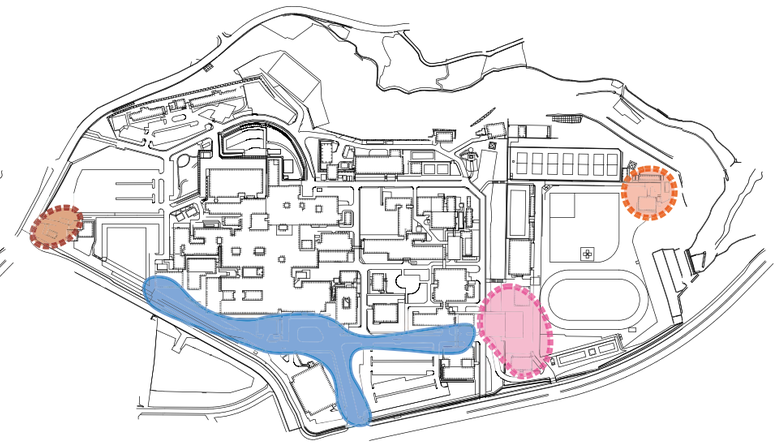
◆2nd ステージ

- 老朽施設の改修
- 大学の経営戦略に関わる整備
- 幹線道路等整備
- インフラストラクチャー整備（医学部）
- サイン整備

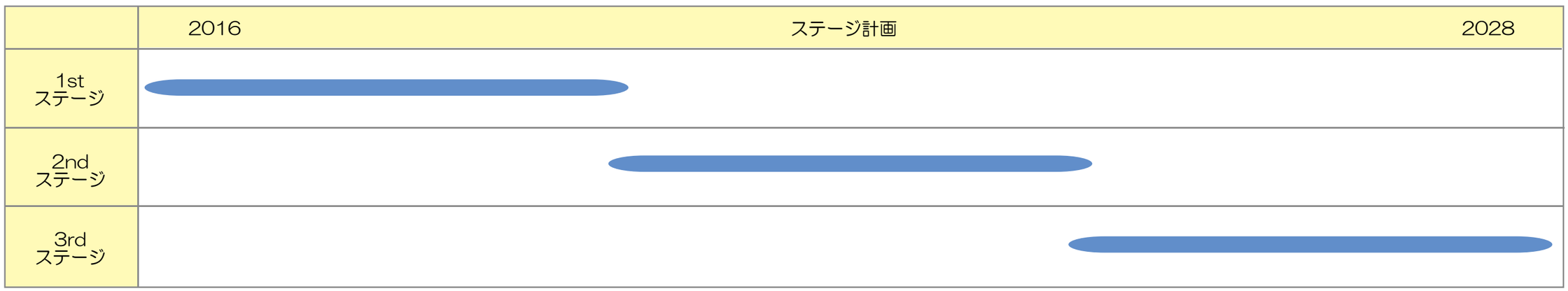
凡例	
	老朽施設の改修
	大学の経営戦略に関わる整備
	幹線道路等整備
	インフラストラクチャー整備

◆3rd ステージ

- 老朽施設の改修
- 留学生受け入れ施設の整備
- パブリックスペース整備
- 幹線道路等整備



凡例	
	留学生受け入れ施設改修
	老朽施設の改修
	幹線道路等整備
	パブリックスペース整備



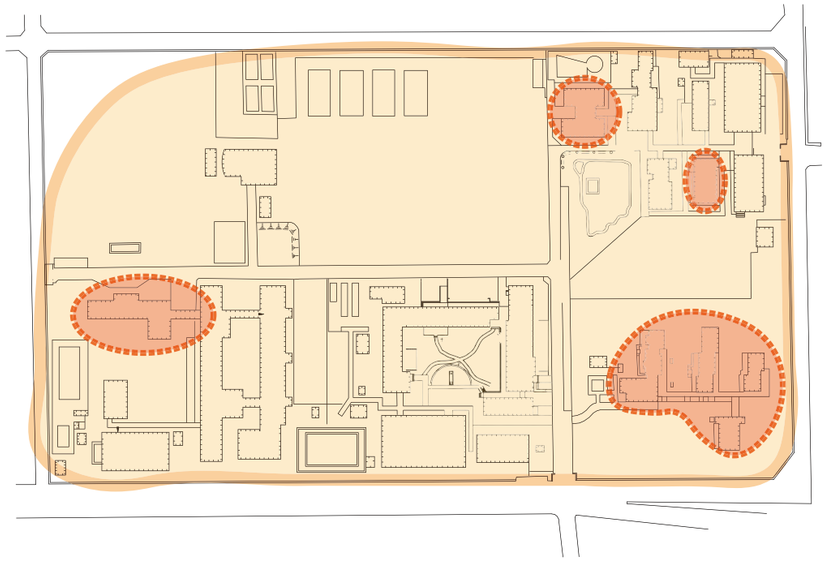
キャンパス整備の部門別計画

王子キャンパスの施設整備計画

王子キャンパスの施設整備計画

◆1st ステージ

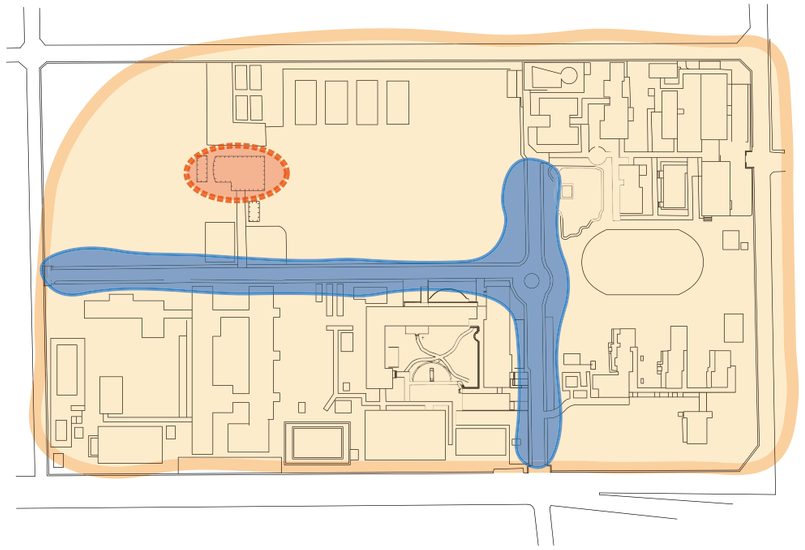
・老朽施設の改修
・インフラストラクチャー整備



凡例	
	老朽施設の改修
	インフラストラクチャー整備

◆2nd ステージ

・老朽施設の改修
・幹線道路等整備
・インフラストラクチャー整備
・サイン整備



凡例	
	老朽施設の改修
	幹線道路等整備
	インフラストラクチャー整備

	2016　ステージ計画　2028
1st ステージ	
2nd ステージ	

参考資料

【文部科学省参考文献】

■戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き　ー個性と魅力あふれるキャンパスの形成を目指してー

（平成22年3月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室）

・戦略的なキャンパスマスタープラン 表紙・目次・はじめに・基本編

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294402_1_1.pdf

・戦略的なキャンパスマスタープラン 実践編

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403_1_1.pdf

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2010/06/01/1294403_2_1.pdf

■戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き　ー　体制とプロセス編ー

（平成25年5月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室）

■キャンパスの創造的再生　～社会に開かれた個性輝く大学キャンパスを目指して～

（平成25年3月　国立大学等のキャンパス整備の在り方に関する検討会）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/__icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431_1.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/__icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431_2.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/__icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431_3.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/kentoukai/__icsFiles/afieldfile/2013/03/27/1332431_4.pdf

■国立大学等キャンパス計画指針

（平成25年9月　文部科学省大臣官房文教施設企画部）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/__icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802_1_1.pdf

http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/kokuritu/__icsFiles/afieldfile/2013/09/20/1339802_2_2.pdf

【大分大学参考文献】

・大分大学ビジョン2015

http://www.oita-u.ac.jp/category/vision2015.html

・国立大学法人大分大学の第3期中期目標・中期計画

http://www.oita-u.ac.jp/13joho/johokokai/hojnjoho-gyomu.html

・ミッションの再定義

http://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/mission.html

・環境報告書

http://www.oita-u.ac.jp/13joho/johokokai/hojnjoho-kankyo.html

■編集・発行

国立大学法人大分大学　財務部施設企画課

〒870-1192　大分市大字旦野原700番地

TEL　097-554-8524

発行日　2016年4月

OITA UNIVERSITY

大分大学

http://www.oita-u.ac.jp/